

第1章 地域課題に関する意識・行動調査の結果

1 県民対象調査

(1) 回答数および回答率と回答者の属性

ア 回答数および回答率

(ア) 調査対象者	2,006名
(イ) 回答数	1,670名
(ウ) 回答率	83.3%

イ 回答者の属性

(ア) 地区別・年代別・性別回答数

【表1】

地区別		
河内地区	n= 334	20.0%
上都賀地区	n= 177	10.6%
芳賀地区	n= 246	14.7%
下都賀地区	n= 278	16.6%
塩谷南那須地区	n= 184	11.0%
那須地区	n= 199	11.9%
安足地区	n= 184	11.0%
県外	n= 8	0.5%
無回答	n= 60	3.6%
合計	n= 1,670	100.0%

【表2】

年代別		
20歳代	n= 28	1.7%
30歳代	n= 250	15.0%
40歳代	n= 505	30.2%
50歳代	n= 401	24.0%
60歳代	n= 302	18.1%
70歳以上	n= 143	8.6%
無回答	n= 41	2.5%
合計	n= 1,670	100.0%

【表3】

性別		
女性	n= 1,064	63.7%
男性	n= 521	31.2%
無回答	n= 85	5.1%
合計	n= 1,670	100.0%

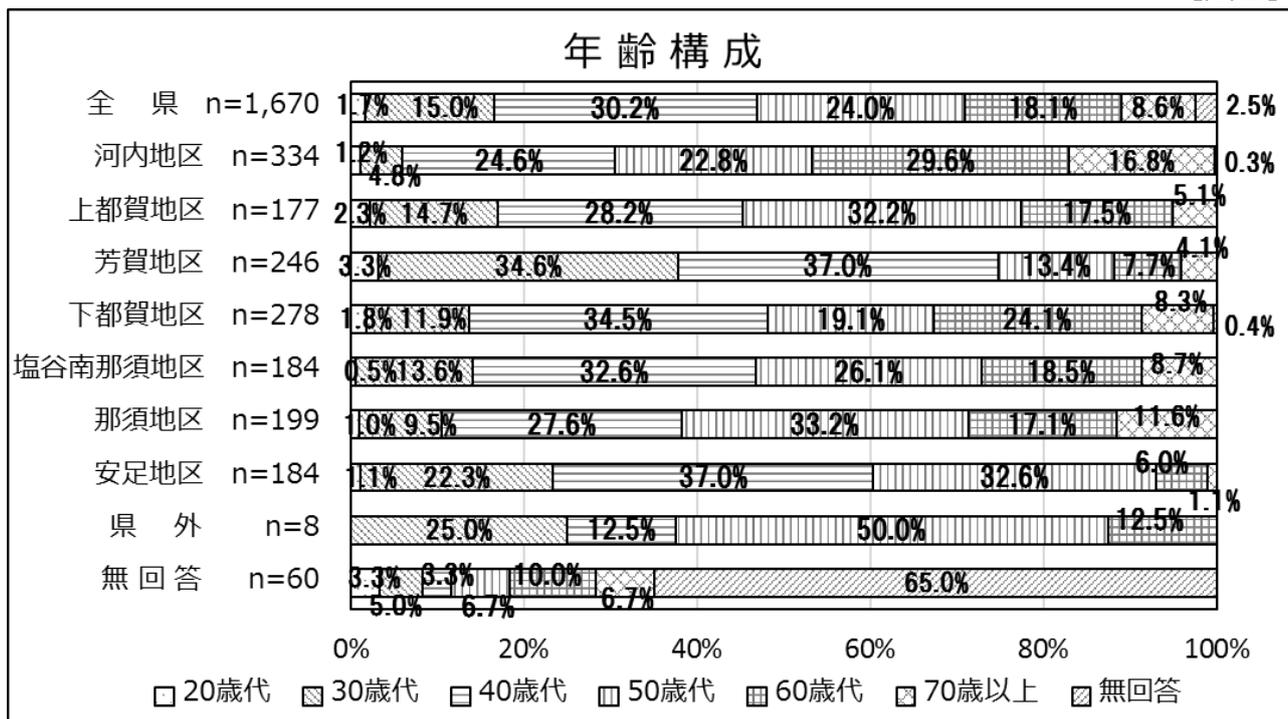
地区別では、各地区が10～20%の範囲に分布する。

年代別では、40歳代、50歳代が多く、合計すると全体の50%を超えている。

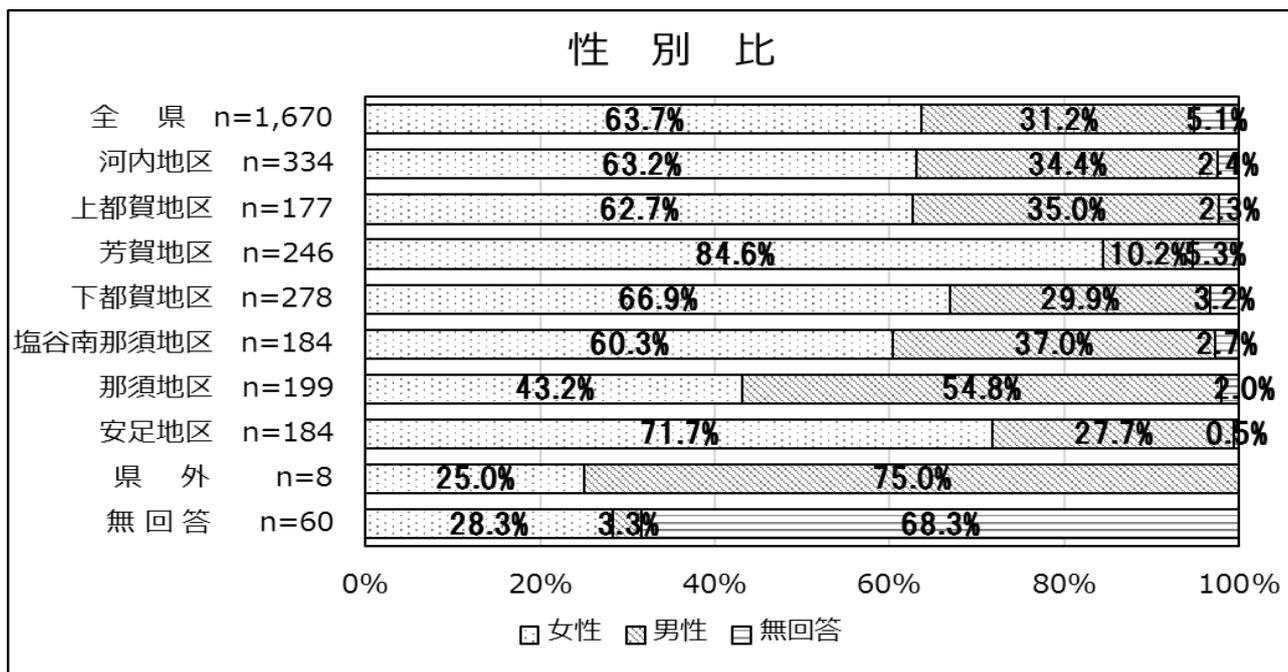
性別では、女性の数が全体で約64%を占めた。

(1) 回答者の属性

【図1】



【図2】



年齢構成を見ると、河内地区では60歳代、上都賀地区、那須地区では50歳代が最多となっているが、他の地区では40歳代が最多である。また、芳賀地区では30歳代、河内地区では70歳以上の占める割合が他地区より高い。

性別比を見ると、芳賀地区で女性の割合が約85%と高い。また、那須地区では男性の割合が約55%と男性の数が女性の数を上回っている。他の地区では、女性が60~70%、男性が30~40%の範囲に分布している。

(2) 地域課題の認識状況

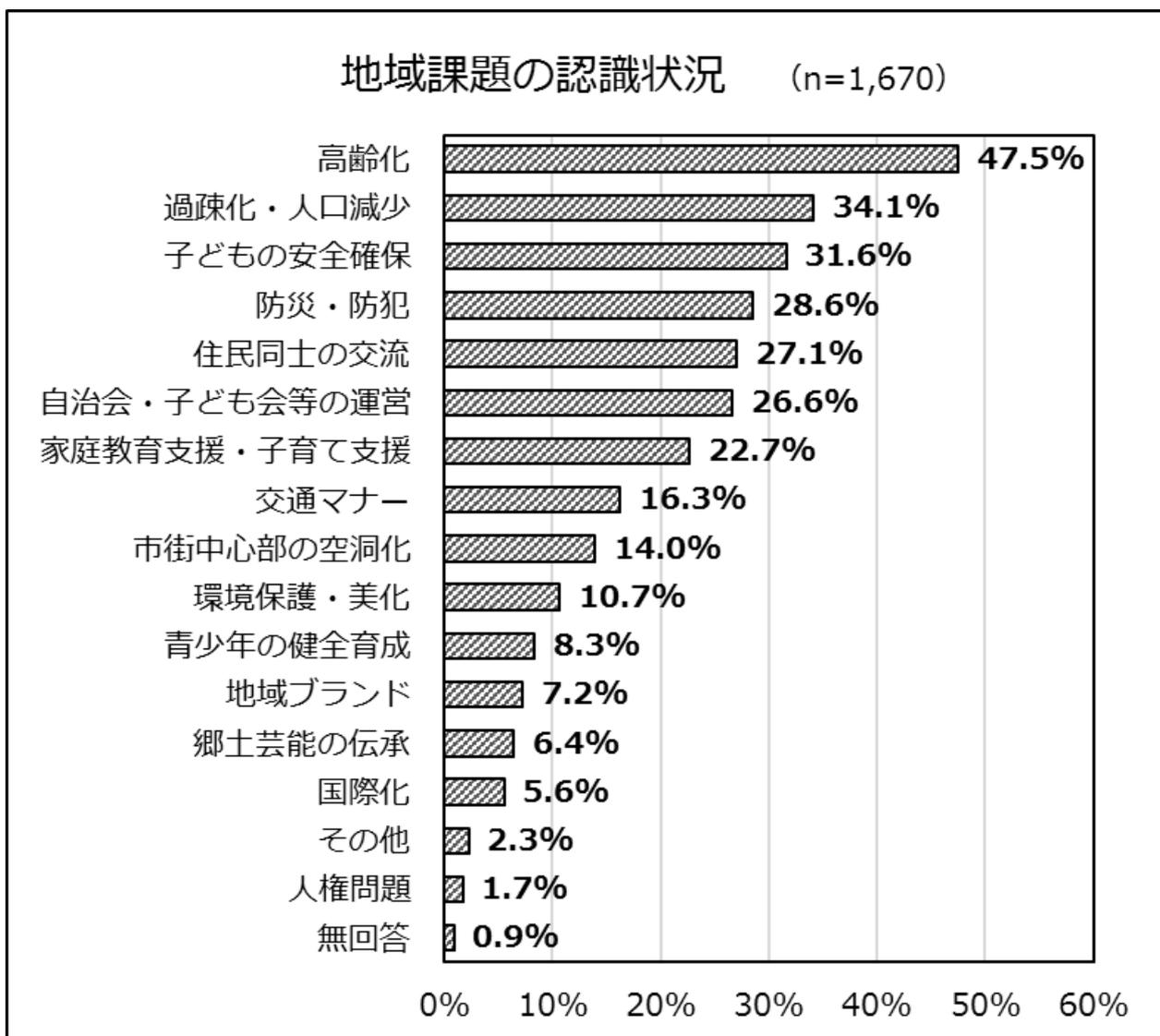
本調査における「地域」とは、概ね回答者の居住する小学校区とし、「地域課題」とは、当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるものと定義した。

問1 あなたの住まいの地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号3つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題の認識状況

【図3】



全県で見ると「高齢化」の回答割合が最も高く、47.5%であった。次いで、「過疎化・人口減少」「子どもの安全確保」で、これら上位3項目が30%を超える回答割合となった。他にも、「防災・防犯」「住民同士の交流」などが上位に挙げられた。

【表4】

地域課題の認識 (地区別)	全 県 n=1,670	河内地区 n=334	上都賀地区 n=177	芳賀地区 n=246	下都賀地区 n=278	塩谷南那須地区 n=184	那須地区 n=199	安足地区 n=184	県 外 n=8	無 回 答 n=60
防災・防犯	28.6%	33.5%	28.2%	32.1%	25.5%	17.9%	29.1%	28.3%	50.0%	30.0%
子どもの安全確保	31.6%	26.0%	34.5%	42.3%	33.1%	26.6%	30.2%	31.0%	12.5%	28.3%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	17.4%	16.4%	28.9%	23.4%	19.0%	19.1%	36.4%	37.5%	21.7%
青少年の健全育成	8.3%	9.3%	9.0%	6.1%	9.7%	3.3%	9.0%	10.3%	12.5%	10.0%
郷土芸能の伝承	6.4%	8.4%	5.6%	4.5%	7.2%	6.0%	8.0%	4.3%	0.0%	5.0%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	29.9%	23.2%	21.5%	29.5%	24.5%	28.6%	28.8%	12.5%	21.7%
住民同士の交流	27.1%	39.8%	23.2%	19.9%	25.9%	21.7%	33.7%	18.5%	12.5%	25.0%
高齢化	47.5%	51.8%	50.8%	40.7%	47.1%	51.6%	49.2%	39.1%	25.0%	53.3%
地域ブランド	7.2%	5.7%	6.8%	9.3%	3.2%	12.5%	9.0%	7.1%	12.5%	5.0%
国際化	5.6%	6.3%	4.0%	6.1%	8.3%	3.8%	2.0%	7.6%	25.0%	0.0%
過疎化・人口減少	34.1%	16.5%	53.1%	33.3%	28.1%	52.7%	38.7%	33.7%	62.5%	33.3%
環境保護・美化	10.7%	17.4%	5.1%	8.1%	12.2%	8.7%	7.5%	9.8%	0.0%	13.3%
人権問題	1.7%	0.3%	0.6%	1.6%	1.4%	4.9%	2.0%	2.2%	0.0%	3.3%
市街中心部の空洞化	14.0%	10.2%	12.4%	16.3%	9.7%	24.5%	16.1%	12.0%	37.5%	13.3%
交通マナー	16.3%	21.6%	19.8%	14.6%	16.9%	12.5%	11.6%	14.7%	0.0%	15.0%
その他	2.3%	1.8%	0.0%	5.3%	2.5%	2.2%	1.0%	3.3%	0.0%	0.0%
無回答	0.9%	1.5%	0.6%	0.8%	1.4%	0.5%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%

地区別にみると、全県で最上位の「高齢化」は、河内、下都賀、那須、安足の各地区で最上位であった。「過疎化・人口減少」は、上都賀地区、塩谷南那須地区で最上位となり、芳賀、那須、安足の各地区でも上位に挙げられた。また、「子どもの安全確保」は、芳賀地区で最上位となり、上都賀、下都賀、塩谷南那須の各地区でも上位に挙げられた。

各地区での順位を整理したものを表5、各課題別に順位を整理したものを表6に示した。

「過疎化・人口減少」では、上都賀地区、塩谷南那須地区と河内地区の間に、地区間の顕著な差異がみられた。他にも、20ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、「家庭教育支援・子育て支援」で安足地区と上都賀地区、「住民同士の交流」で河内地区と安足地区との間に差異を見出すことができる。一方で、「自治会・子ども会の運営」等では、地区間に明確な差異はみられなかった。

【表5】

	全 県 n=1,670	河内地区 n=334	上都賀地区 n=177	芳賀地区 n=246	下都賀地区 n=278	塩谷南那須地区 n=184	那須地区 n=199	安定地区 n=184	県 外 n=8	無 回 答 n=60
1	高齢化 47.5%	高齢化 51.8%	過疎化・人口 減少 53.1%	子どもの安全 確保 42.3%	高齢化 47.1%	過疎化・人口 減少 52.7%	高齢化 49.2%	高齢化 39.1%	過疎化・人口 減少 62.5%	高齢化 53.3%
2	過疎化・人口 減少 34.1%	住民同士の交 流 39.8%	高齢化 50.8%	高齢化 40.7%	子どもの安全 確保 33.1%	高齢化 51.6%	過疎化・人口 減少 38.7%	家庭教育支援 子育て支援 36.4%	防災・防犯 50.0%	過疎化・人口 減少 33.3%
3	子どもの安全 確保 31.6%	防災・防犯 33.5%	子どもの安全 確保 34.5%	過疎化・人口 減少 33.3%	自治会・子ど も会等の運営 29.5%	子どもの安全 確保 26.6%	住民同士の交 流 33.7%	過疎化・人口 減少 33.7%	家庭教育支援 子育て支援 37.5%	防災・防犯 30.0%
4	防災・防犯 28.6%	自治会・子ど も会等の運営 29.9%	防災・防犯 28.2%	防災・防犯 32.1%	過疎化・人口 減少 28.1%	自治会・子ど も会等の運営 24.5%	子どもの安全 確保 30.2%	子どもの安全 確保 31.0%	市街中心部の 空洞化 37.5%	子どもの安全 確保 28.3%
5	住民同士の交 流 27.1%	子どもの安全 確保 26.0%	自治会・子ど も会等の運営 23.2%	家庭教育支援 子育て支援 28.9%	住民同士の交 流 25.9%	市街中心部の 空洞化 24.5%	防災・防犯 29.1%	自治会・子ど も会等の運営 28.8%	高齢化 25.0%	住民同士の交 流 25.0%
6	自治会・子ど も会等の運営 26.6%	交通マナー 21.6%	住民同士の交 流 23.2%	自治会・子ど も会等の運営 21.5%	防災・防犯 25.5%	住民同士の交 流 21.7%	自治会・子ど も会等の運営 28.6%	防災・防犯 28.3%	国際化 25.0%	家庭教育支援 子育て支援 21.7%
7	家庭教育支援 子育て支援 22.7%	家庭教育支援 子育て支援 17.4%	交通マナー 19.8%	住民同士の交 流 19.9%	家庭教育支援 子育て支援 23.4%	家庭教育支援 子育て支援 19.0%	家庭教育支援 子育て支援 19.1%	住民同士の交 流 18.5%	子どもの安全 確保 12.5%	自治会・子ど も会等の運営 21.7%
8	交通マナー 16.3%	環境保護・美 化 17.4%	家庭教育支援 子育て支援 16.4%	市街中心部の 空洞化 16.3%	交通マナー 16.9%	防災・防犯 17.9%	市街中心部の 空洞化 16.1%	交通マナー 14.7%	青少年の健全 育成 12.5%	交通マナー 15.0%
9	市街中心部の 空洞化 14.0%	過疎化・人口 減少 16.5%	市街中心部の 空洞化 12.4%	交通マナー 14.6%	環境保護・美 化 12.2%	地域ブランド 12.5%	交通マナー 11.6%	市街中心部の 空洞化 12.0%	自治会・子ど も会等の運営 12.5%	環境保護・美 化 13.3%
10	環境保護・美 化 10.7%	市街中心部の 空洞化 10.2%	青少年の健全 育成 9.0%	地域ブランド 9.3%	青少年の健全 育成 9.7%	交通マナー 12.5%	青少年の健全 育成 9.0%	青少年の健全 育成 10.3%	住民同士の交 流 12.5%	市街中心部の 空洞化 13.3%
11	青少年の健全 育成 8.3%	青少年の健全 育成 9.3%	地域ブランド 6.8%	環境保護・美 化 8.1%	市街中心部の 空洞化 9.7%	環境保護・美 化 8.7%	地域ブランド 9.0%	環境保護・美 化 9.8%	地域ブランド 12.5%	青少年の健全 育成 10.0%
12	地域ブランド 7.2%	郷土芸能の伝 承 8.4%	郷土芸能の伝 承 5.6%	青少年の健全 育成 6.1%	国際化 8.3%	郷土芸能の伝 承 6.0%	郷土芸能の伝 承 8.0%	国際化 7.6%	郷土芸能の伝 承 0.0%	郷土芸能の伝 承 5.0%
13	郷土芸能の伝 承 6.4%	国際化 6.3%	環境保護・美 化 5.1%	国際化 6.1%	郷土芸能の伝 承 7.2%	人権問題 4.9%	環境保護・美 化 7.5%	地域ブランド 7.1%	環境保護・美 化 0.0%	地域ブランド 5.0%
14	国際化 5.6%	地域ブランド 5.7%	国際化 4.0%	その他 5.3%	地域ブランド 3.2%	国際化 3.8%	国際化 2.0%	郷土芸能の伝 承 4.3%	人権問題 0.0%	人権問題 3.3%
15	その他 2.3%	その他 1.8%	人権問題 0.6%	郷土芸能の伝 承 4.5%	その他 2.5%	青少年の健全 育成 3.3%	人権問題 2.0%	その他 3.3%	交通マナー 0.0%	国際化 0.0%
16	人権問題 1.7%	無回答 1.5%	無回答 0.6%	人権問題 1.6%	人権問題 1.4%	その他 2.2%	その他 1.0%	人権問題 2.2%	その他 0.0%	その他 0.0%
17	無回答 0.9%	人権問題 0.3%	その他 0.0%	無回答 0.8%	無回答 1.4%	無回答 0.5%	無回答 0.0%	無回答 1.1%	無回答 0.0%	無回答 0.0%

【表6】

防災・防犯		子どもの安全確保		家庭教育支援・子育て支援		青少年の健全育成		郷土芸能の伝承		
1	河内地区 n=334	33.5%	芳賀地区 n=246	42.3%	安足地区 n=184	36.4%	安足地区 n=184	10.3%	河内地区 n=334	8.4%
2	芳賀地区 n=246	32.1%	上都賀地区 n=177	34.5%	芳賀地区 n=246	28.9%	下都賀地区 n=278	9.7%	那須地区 n=199	8.0%
3	那須地区 n=199	29.1%	下都賀地区 n=278	33.1%	下都賀地区 n=278	23.4%	河内地区 n=334	9.3%	下都賀地区 n=278	7.2%
4	安足地区 n=184	28.3%	安足地区 n=184	31.0%	那須地区 n=199	19.1%	那須地区 n=199	9.0%	塩谷南那須地区 n=184	6.0%
5	上都賀地区 n=177	28.2%	那須地区 n=199	30.2%	塩谷南那須地区 n=184	19.0%	上都賀地区 n=177	9.0%	上都賀地区 n=177	5.6%
6	下都賀地区 n=278	25.5%	塩谷南那須地区 n=184	26.6%	河内地区 n=334	17.4%	芳賀地区 n=246	6.1%	芳賀地区 n=246	4.5%
7	塩谷南那須地区 n=184	17.9%	河内地区 n=334	26.0%	上都賀地区 n=177	16.4%	塩谷南那須地区 n=184	3.3%	安足地区 n=184	4.3%
自治会・子ども会等の運営		住民同士の交流		高齢化		地域ブランド		国際化		
1	河内地区 n=334	29.9%	河内地区 n=334	39.8%	河内地区 n=334	51.8%	塩谷南那須地区 n=184	12.5%	下都賀地区 n=278	8.3%
2	下都賀地区 n=278	29.5%	那須地区 n=199	33.7%	塩谷南那須地区 n=184	51.6%	芳賀地区 n=246	9.3%	安足地区 n=184	7.6%
3	安足地区 n=184	28.8%	下都賀地区 n=278	25.9%	上都賀地区 n=177	50.8%	那須地区 n=199	9.0%	河内地区 n=334	6.3%
4	那須地区 n=199	28.6%	上都賀地区 n=177	23.2%	那須地区 n=199	49.2%	安足地区 n=184	7.1%	芳賀地区 n=246	6.1%
5	塩谷南那須地区 n=184	24.5%	塩谷南那須地区 n=184	21.7%	下都賀地区 n=278	47.1%	上都賀地区 n=177	6.8%	上都賀地区 n=177	4.0%
6	上都賀地区 n=177	23.2%	芳賀地区 n=246	19.9%	芳賀地区 n=246	40.7%	河内地区 n=334	5.7%	塩谷南那須地区 n=184	3.8%
7	芳賀地区 n=246	21.5%	安足地区 n=184	18.5%	安足地区 n=184	39.1%	下都賀地区 n=278	3.2%	那須地区 n=199	2.0%
過疎化・人口減少		環境保護・美化		人権問題		市街中心部の空洞化		交通マナー		
1	上都賀地区 n=177	53.1%	河内地区 n=334	17.4%	塩谷南那須地区 n=184	4.9%	塩谷南那須地区 n=184	24.5%	河内地区 n=334	21.6%
2	塩谷南那須地区 n=184	52.7%	下都賀地区 n=278	12.2%	安足地区 n=184	2.2%	芳賀地区 n=246	16.3%	上都賀地区 n=177	19.8%
3	那須地区 n=199	38.7%	安足地区 n=184	9.8%	那須地区 n=199	2.0%	那須地区 n=199	16.1%	下都賀地区 n=278	16.9%
4	安足地区 n=184	33.7%	塩谷南那須地区 n=184	8.7%	芳賀地区 n=246	1.6%	上都賀地区 n=177	12.4%	安足地区 n=184	14.7%
5	芳賀地区 n=246	33.3%	芳賀地区 n=246	8.1%	下都賀地区 n=278	1.4%	安足地区 n=184	12.0%	芳賀地区 n=246	14.6%
6	下都賀地区 n=278	28.1%	那須地区 n=199	7.5%	上都賀地区 n=177	0.6%	河内地区 n=334	10.2%	塩谷南那須地区 n=184	12.5%
7	河内地区 n=334	16.5%	上都賀地区 n=177	5.1%	河内地区 n=334	0.3%	下都賀地区 n=278	9.7%	那須地区 n=199	11.6%

また、各課題の上位3地区をみていくと、最も課題が集約されているのは上都賀地区の4項目で、課題が分散されているのは河内地区と下都賀地区の9項目であった。特に、河内地区は7項目で最も回答割合が高かった。他の地区は5～7項目であった。

イ 性別に見た地域課題の認識状況

【表7】

地域課題の認識 (性別)	全 県 n=1,670	女 性 n=1,064	男 性 n=521	無 回 答 n=85
防災・防犯	28.6%	28.2%	29.4%	28.2%
子どもの安全確保	31.6%	34.2%	25.5%	36.5%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	25.8%	17.3%	16.5%
青少年の健全育成	8.3%	8.5%	7.5%	11.8%
郷土芸能の伝承	6.4%	5.9%	7.7%	4.7%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	25.8%	29.2%	21.2%
住民同士の交流	27.1%	25.7%	31.1%	20.0%
高齢化	47.5%	46.7%	49.3%	45.9%
地域ブランド	7.2%	6.9%	8.3%	5.9%
国際化	5.6%	6.7%	3.8%	2.4%
過疎化・人口減少	34.1%	30.8%	40.5%	36.5%
環境保護・美化	10.7%	10.5%	10.9%	10.6%
人権問題	1.7%	1.5%	1.5%	5.9%
市街中心部の空洞化	14.0%	13.3%	16.1%	9.4%
交通マナー	16.3%	17.4%	13.8%	17.6%
その他	2.3%	2.4%	2.1%	1.2%
無回答	0.9%	1.1%	0.0%	3.5%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、4項目で差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは、「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」の2項目で、約9ポイント上回った。また、男性が女性を上回ったものも2項目で、「住民同士の交流」で約5ポイント、「過疎化・人口減少」で約10ポイント上回った。

ウ 年代別に見た地域課題の認識状況

【表8】

地域課題の認識 (年代別)	全 県 n=1,670	20歳代 n=28	30歳代 n=250	40歳代 n=505	50歳代 n=401	60歳代 n=302	70歳以上 n=143	無 回 答 n=60
防災・防犯	28.6%	25.0%	29.6%	26.3%	26.4%	30.8%	36.4%	29.3%
子どもの安全確保	31.6%	32.1%	51.6%	39.2%	24.4%	17.2%	18.9%	36.6%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	21.4%	35.2%	27.3%	23.2%	11.9%	7.0%	19.5%
青少年の健全育成	8.3%	10.7%	6.4%	9.5%	9.2%	6.3%	8.4%	9.8%
郷土芸能の伝承	6.4%	3.6%	5.2%	5.3%	6.5%	8.6%	7.7%	7.3%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	7.1%	26.4%	32.9%	27.4%	23.5%	16.1%	17.1%
住民同士の交流	27.1%	21.4%	18.4%	20.0%	26.7%	40.4%	42.7%	22.0%
高齢化	47.5%	46.4%	32.8%	37.2%	52.4%	63.2%	61.5%	51.2%
地域ブランド	7.2%	3.6%	8.4%	7.3%	8.2%	6.3%	4.9%	7.3%
国際化	5.6%	10.7%	6.8%	4.8%	6.5%	5.3%	4.9%	0.0%
過疎化・人口減少	34.1%	35.7%	33.2%	34.1%	38.9%	31.8%	27.3%	34.1%
環境保護・美化	10.7%	3.6%	5.2%	7.3%	9.2%	18.2%	21.0%	12.2%
人権問題	1.7%	3.6%	2.0%	2.6%	1.0%	1.0%	0.7%	4.9%
市街中心部の空洞化	14.0%	7.1%	9.6%	15.0%	12.5%	17.9%	16.1%	9.8%
交通マナー	16.3%	32.1%	20.0%	20.0%	11.7%	12.6%	13.3%	19.5%
その他	2.3%	3.6%	3.6%	3.0%	2.0%	1.0%	1.4%	0.0%
無回答	0.9%	3.6%	1.2%	0.8%	0.5%	1.0%	1.4%	0.0%

「防災・防犯」や「過疎化・人口減少」は世代間に課題認識の明確な差異がみられない。それに対して、「交通マナー」は20～40歳代で、「子どもの安全確保」や「家庭教育支援・子育て支援」、「交通マナー」は30・40歳代で回答割合が高かった。また、「自治会・子ども会等の運営」は30～50歳代で、「住民同士の交流」や「高齢化」、「環境保護・美化」は60歳代・70歳以上で割合が高いなど、世代間で課題認識に明確な差が生じるものも多くみられる。

工 地域課題の認識状況についての過去の調査との比較

過去の調査との比較を行うデータは、同様の集計方法でないと比較ができないため、「総回答数からの割合」で集計を行っている。

【表 9】

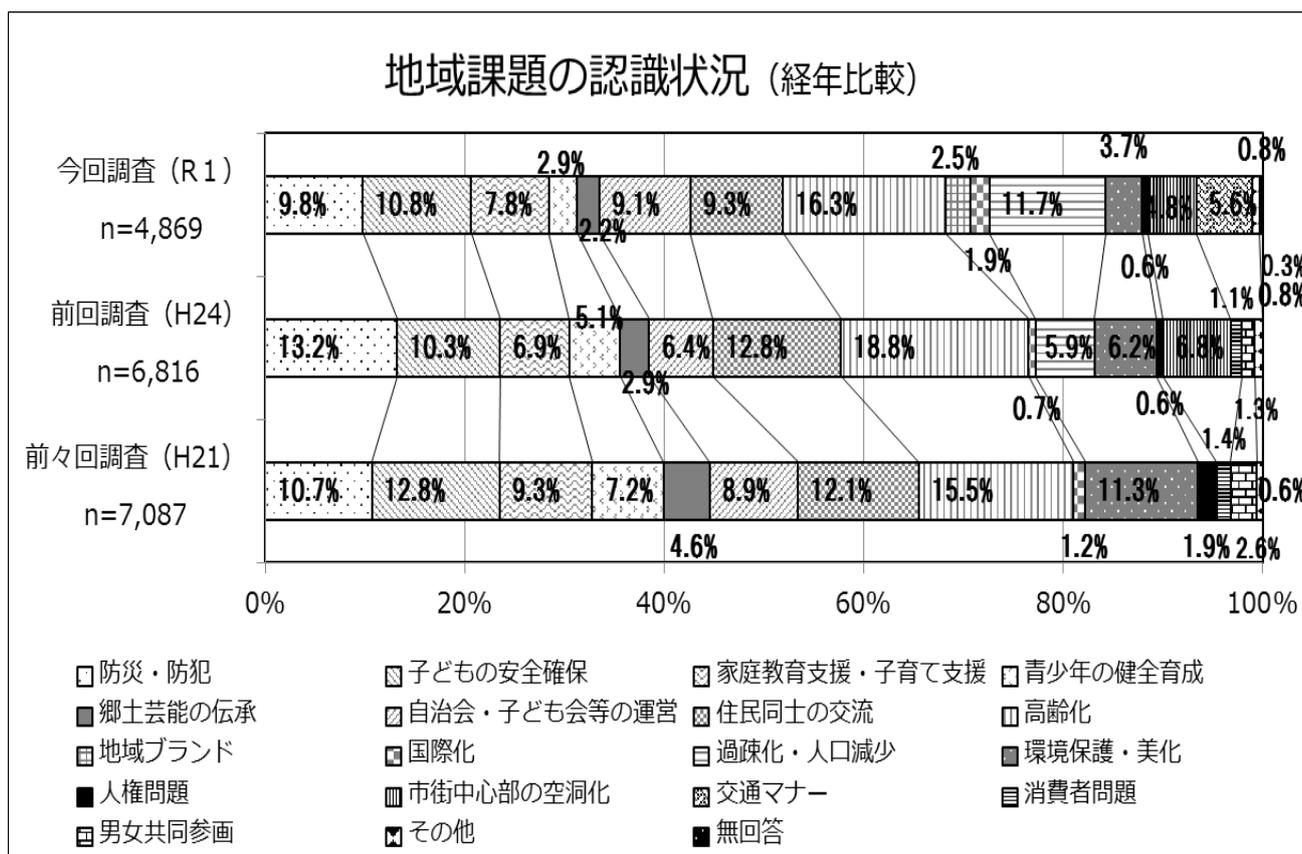
地域課題の認識 (経年比較)	今回調査 (R1) n=4,869	前回調査 (H24) n=6,816	前々回調査 (H21) n=7,087	今回調査と 前回調査の 増減
防災・防犯	9.8%	13.2%	10.7%	-3.4%
子どもの安全確保	10.8%	10.3%	12.8%	0.5%
家庭教育支援・子育て支援	7.8%	6.9%	9.3%	0.9%
青少年の健全育成	2.9%	5.1%	7.2%	-2.2%
郷土芸能の伝承	2.2%	2.9%	4.6%	-0.7%
自治会・子ども会等の運営	9.1%	6.4%	8.9%	2.7%
住民同士の交流	9.3%	12.8%	12.1%	-3.5%
高齢化	16.3%	18.8%	15.5%	-2.5%
地域ブランド	2.5%	—	—	—
国際化	1.9%	0.7%	1.2%	1.2%
過疎化・人口減少	11.7%	5.9%	—	5.8%
環境保護・美化	3.7%	6.2%	11.3%	-2.5%
人権問題	0.6%	0.6%	1.9%	0.0%
市街中心部の空洞化	4.8%	6.8%	—	-2.0%
交通マナー	5.6%	—	—	—
消費者問題	—	1.1%	1.4%	—
男女共同参画	—	1.3%	2.6%	—
その他	0.8%	0.8%	0.6%	0.0%
無回答	0.3%	—	—	—

今回の調査では、「地域ブランド」「交通マナー」という選択肢を新たに設け、「消費者問題」「男女共同参画」を削除した。選択肢の数は前回調査と同数にした。

大きく割合を増加させたのは「過疎化・人口減少」で、5.8ポイントであった。これは、前回調査の9位から3位に上昇するもので、特に顕著なものであるといえる。他に、「自治会・子ども会等の運営」も2.7ポイントであった。

逆に、3ポイント以上割合を減少させたのは、「住民同士の交流」で3.5ポイント、「防災・防犯」で3.4ポイントであった。「防災・防犯」については、前回調査が東日本大震災後のため、県民の防災意識が高まっていたことが影響していると考えられる。

【図4】



《参考：問1「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎公共交通の整備 ◎空き家対策 ◎耕作放棄地対策

○隣宅とのトラブル ○買物難民対策 ○道路・歩道等のインフラ整備

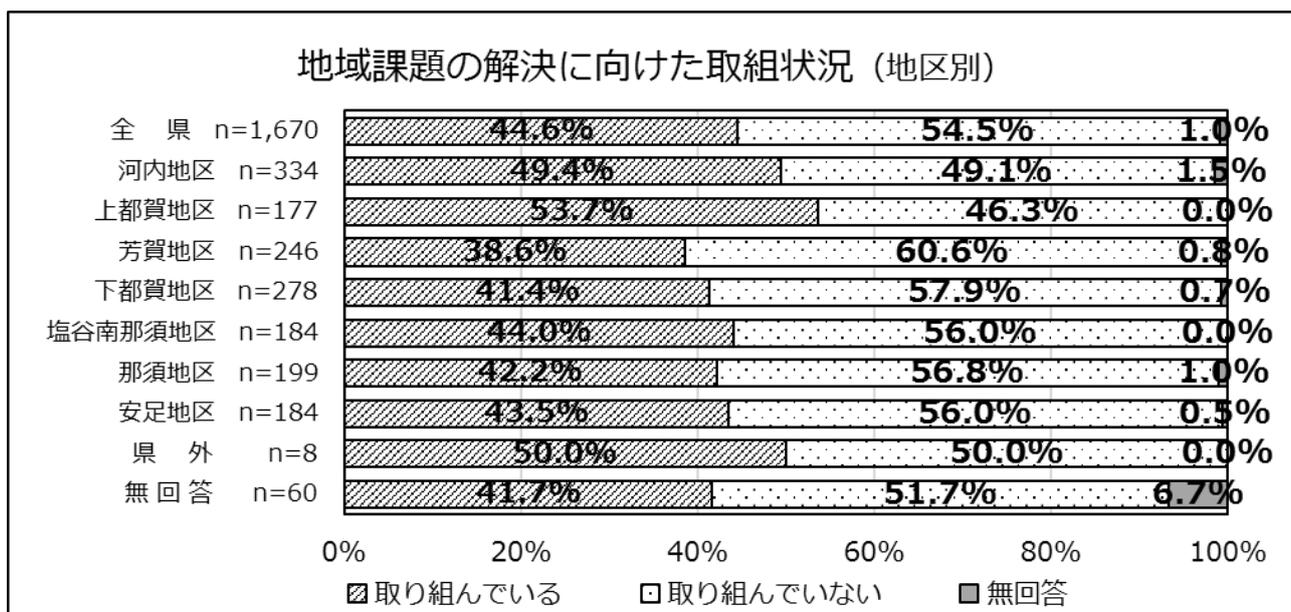
(3) 地域課題の解決に向けた取組状況

問2 現在、あなたは地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。上記選択肢や下記活動例を参考に、あてはまる番号に○をつけてください。

*設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた取組状況

【図5】

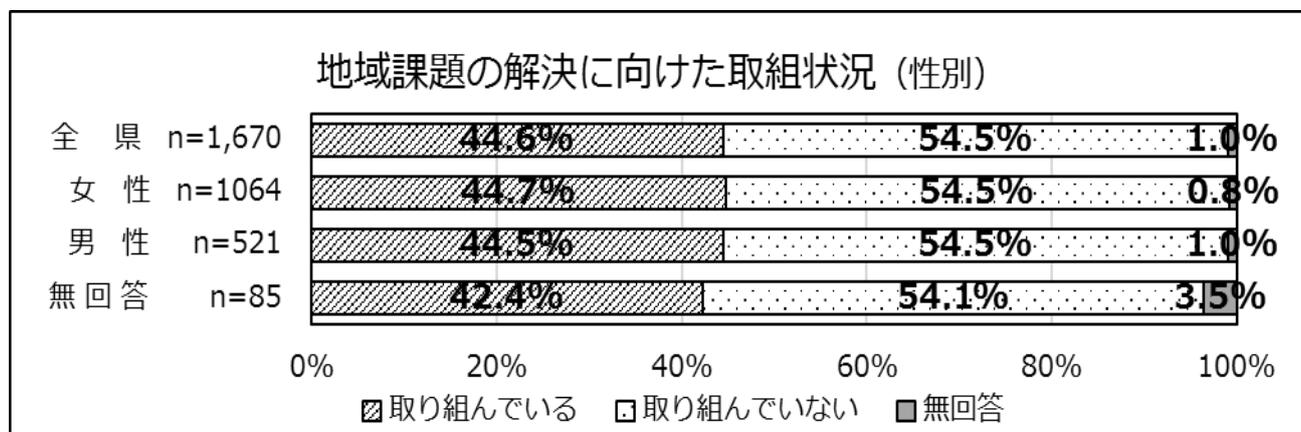


全県で見ると、「活動に取り組んでいる」と回答した割合は約45%であった。

地区別にみると、最も活動に取り組んでいる割合が高かったのは上都賀地区で、唯一50%を超える約54%であった。

イ 性別にみた取組状況

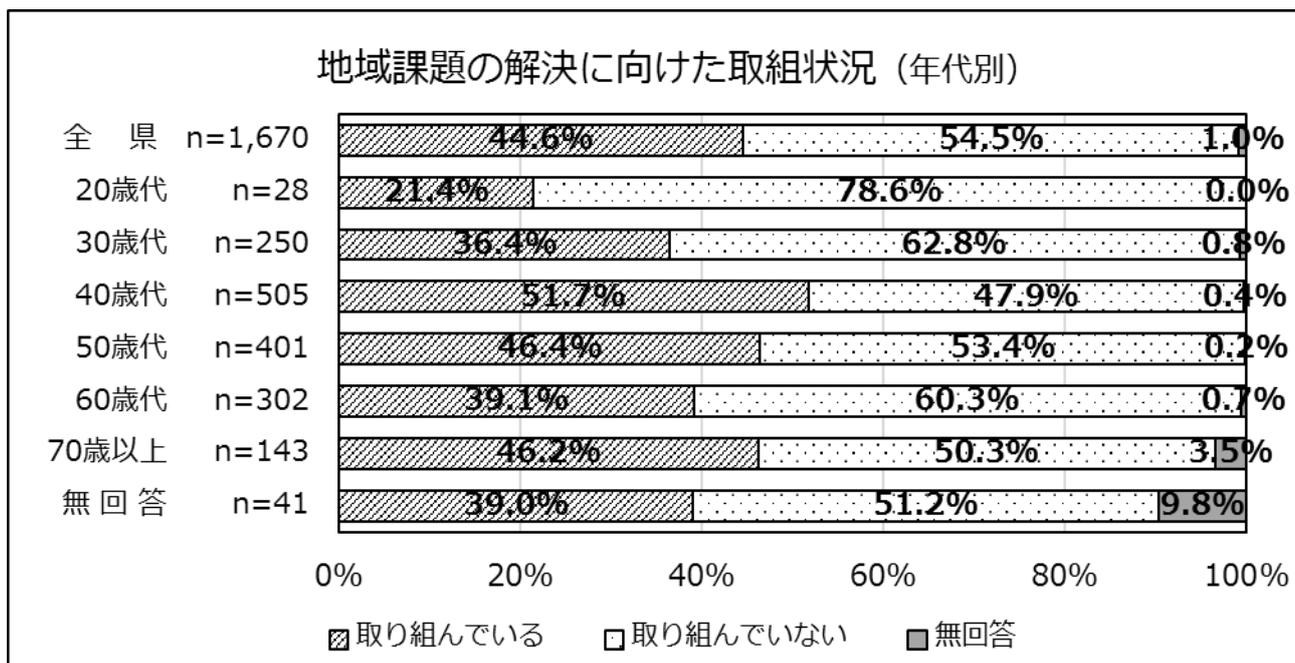
【図6】



前回調査では、「活動に取り組んでいる」と回答した割合は、女性37.6%、男性52.9%と大きな差がみられたが、今回の調査では性別での差異はみられなかった。

ウ 年代別にみた取組状況

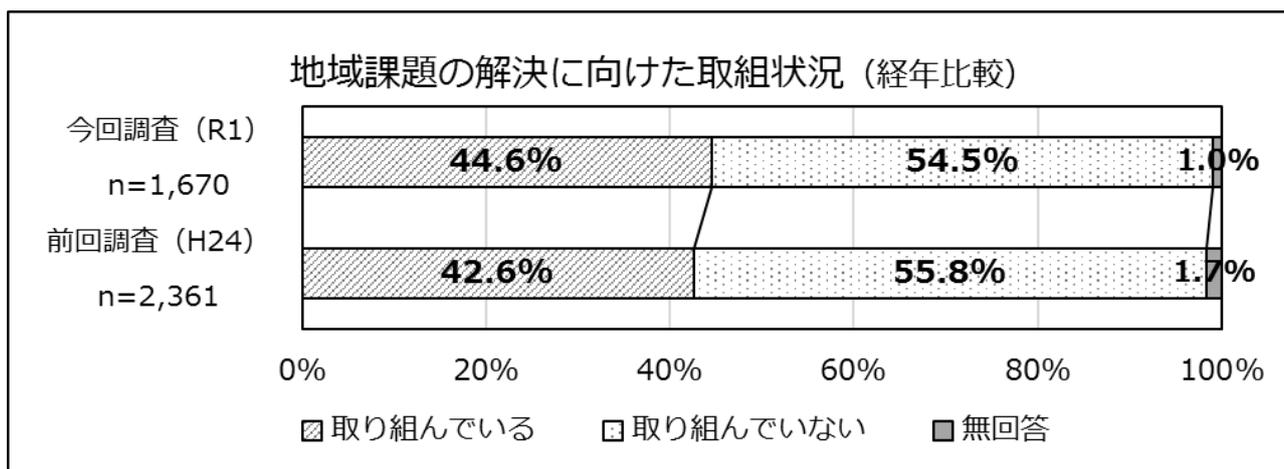
【図7】



年代別に活動の取組状況を見ると、「40歳代」が最も多く、半数以上が何らかの活動に取り組んでいることが分かる。また、50歳代と60歳代で徐々にその回答割合は減少するが、「70歳以上」でまた急増している。「40歳代」と「70歳以上」において活動に取り組んだ経験が増加する傾向は、前回調査と同様である。

エ 取組状況についての過去の調査との比較

【図8】



前回調査と比較し、活動に「取り組んでいる」と回答した割合は、2ポイントほど増加した。

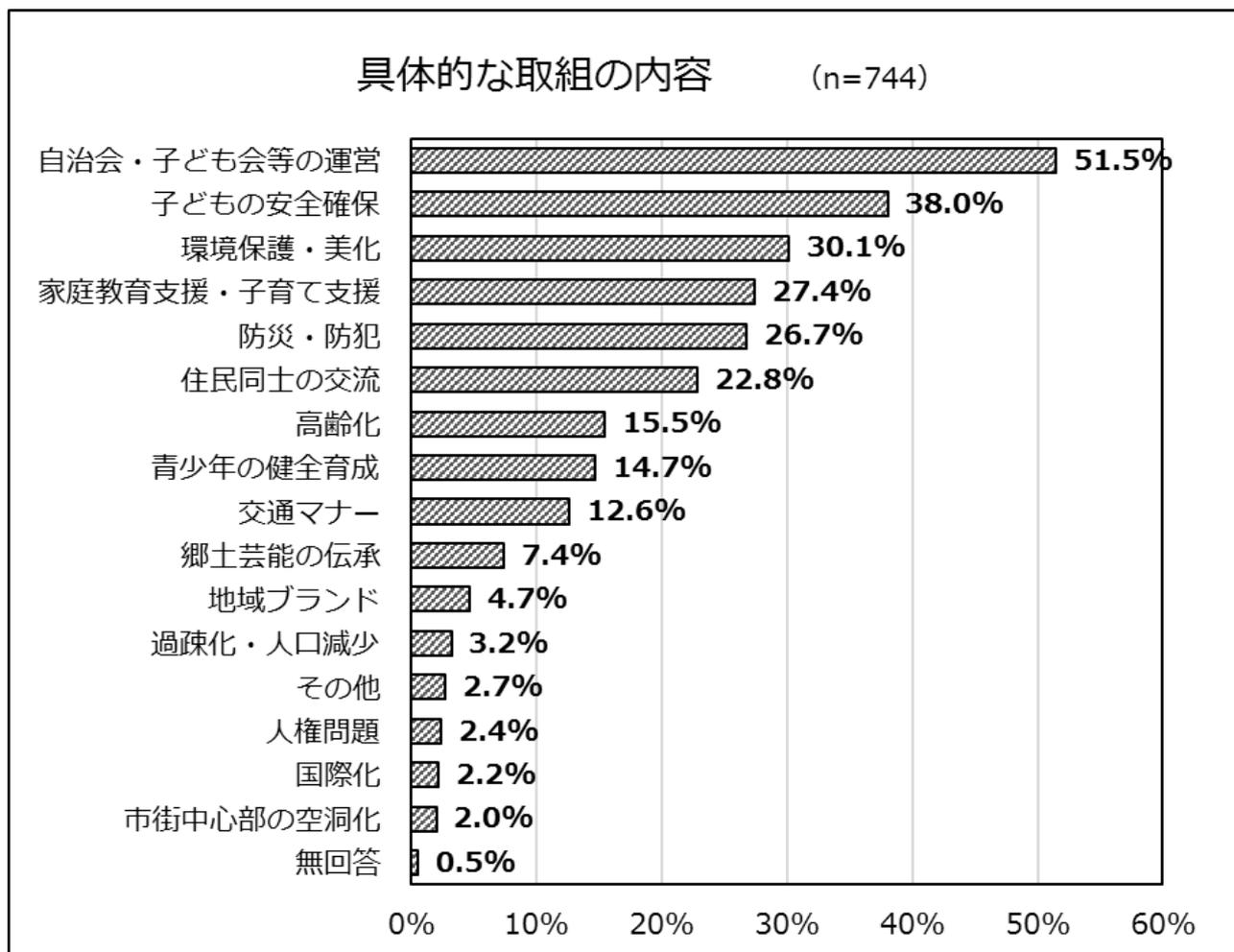
(4) 具体的な取組の内容

問3 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは具体的にどのような活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

*設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた取組の内容

【図9】



実際に地域課題の解決に向けた活動に取り組んだ経験をもつ744名に対して、その内容について質問した。

全県でみると、「自治会・子ども会等の運営」が51.5%と最も高く、唯一半数を超えた。また、「子どもの安全確保」「環境保護・美化」が、それに次いで回答割合が高かった。

【表 10】

具体的な取組の内容 (地区別)	全 県 n=744	河内地区 n=165	上都賀地区 n=95	芳賀地区 n=95	下都賀地区 n=115	塩谷南那須地区 n=81	那須地区 n=84	安足地区 n=80	県 外 n=4	無 回 答 n=25
防災・防犯	26.7%	27.3%	31.6%	20.0%	32.2%	18.5%	28.6%	23.8%	0.0%	40.0%
子どもの安全確保	38.0%	41.8%	44.2%	38.9%	44.3%	28.4%	25.0%	40.0%	0.0%	32.0%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	26.7%	29.5%	44.2%	20.0%	28.4%	26.2%	16.3%	25.0%	32.0%
青少年の健全育成	14.7%	12.1%	21.1%	10.5%	14.8%	14.8%	15.5%	13.8%	0.0%	24.0%
郷土芸能の伝承	7.4%	6.1%	9.5%	4.2%	9.6%	4.9%	9.5%	8.8%	0.0%	8.0%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	58.2%	50.5%	44.2%	53.0%	49.4%	48.8%	55.0%	25.0%	40.0%
住民同士の交流	22.8%	18.2%	28.4%	20.0%	20.0%	25.9%	41.7%	15.0%	0.0%	12.0%
高齢化	15.5%	16.4%	11.6%	15.8%	13.0%	16.0%	27.4%	8.8%	0.0%	16.0%
地域ブランド	4.7%	1.8%	6.3%	6.3%	3.5%	7.4%	4.8%	6.3%	0.0%	4.0%
国際化	2.2%	0.6%	3.2%	0.0%	1.7%	2.5%	2.4%	5.0%	0.0%	8.0%
過疎化・人口減少	3.2%	1.2%	6.3%	2.1%	3.5%	4.9%	6.0%	1.3%	0.0%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	30.9%	29.5%	30.5%	29.6%	28.4%	31.0%	36.3%	0.0%	16.0%
人権問題	2.4%	1.8%	4.2%	1.1%	1.7%	1.2%	2.4%	5.0%	0.0%	4.0%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.6%	2.1%	0.0%	4.3%	1.2%	1.2%	3.8%	25.0%	4.0%
交通マナー	12.6%	15.8%	16.8%	13.7%	8.7%	9.9%	13.1%	6.3%	0.0%	20.0%
その他	2.7%	1.2%	2.1%	6.3%	3.5%	4.9%	0.0%	1.3%	25.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.6%	0.0%	1.1%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%

地区別にみると、全県で最上位であった「自治会・子ども会等の運営」は、全ての地区で回答割合が最も高かった。また、芳賀地区では「家庭教育支援・子育て支援」も同率の回答割合であり、那須地区では「住民同士の交流」が2番目に高くなっているなど、地区の実態を反映した取組内容となっている様子もみられる。

「家庭教育支援・子育て支援」では、回答割合の最も高い芳賀地区と最も低い安足地区で約 28 ポイントの差があり、「住民同士の交流」では、那須地区と安足地区で約 27 ポイントの差があるなど、項目によって地区間の取組内容の差異が顕著であるものもみられる。

イ 性別にみた取組の内容

【表 11】

具体的な取組の内容 (性別)	全 県 n=744	女 性 n=476	男 性 n=232	無 回 答 n=36
防災・防犯	26.7%	22.9%	31.9%	44.4%
子どもの安全確保	38.0%	37.8%	37.1%	47.2%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	33.4%	13.8%	36.1%
青少年の健全育成	14.7%	11.6%	21.1%	13.9%
郷土芸能の伝承	7.4%	6.5%	9.1%	8.3%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	52.1%	52.2%	38.9%
住民同士の交流	22.8%	21.2%	28.0%	11.1%
高齢化	15.5%	15.8%	15.5%	11.1%
地域ブランド	4.7%	3.8%	7.3%	0.0%
国際化	2.2%	1.7%	2.6%	5.6%
過疎化・人口減少	3.2%	2.1%	6.0%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	30.5%	29.3%	30.6%
人権問題	2.4%	2.3%	2.2%	5.6%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.8%	4.3%	2.8%
交通マナー	12.6%	11.1%	14.2%	22.2%
その他	2.7%	2.9%	2.2%	2.8%
無回答	0.5%	0.6%	0.0%	2.8%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、4項目で差異があるといえる。

「防災・防犯」「青少年の健全育成」「住民同士の交流」では男性が女性を上回った。また、「家庭教育支援・子育て支援」では、女性が男性を約20ポイント上回った。

ウ 年代別にみた取組の内容

【表 12】

具体的な取組の内容 (年代別)	全 県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無 回 答 n=16
防災・防犯	26.7%	0.0%	20.9%	23.4%	28.5%	30.5%	31.8%	56.3%
子どもの安全確保	38.0%	33.3%	44.0%	46.0%	37.6%	21.2%	30.3%	37.5%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	33.3%	27.5%	24.1%	31.7%	31.4%	19.7%	31.3%
青少年の健全育成	14.7%	33.3%	9.9%	16.5%	18.3%	10.2%	9.1%	18.8%
郷土芸能の伝承	7.4%	0.0%	4.4%	7.7%	6.5%	7.6%	12.1%	12.5%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	0.0%	50.5%	60.2%	52.7%	42.4%	39.4%	37.5%
住民同士の交流	22.8%	16.7%	24.2%	16.5%	22.0%	33.1%	33.3%	12.5%
高齢化	15.5%	0.0%	7.7%	6.5%	10.8%	36.4%	37.9%	18.8%
地域ブランド	4.7%	0.0%	9.9%	5.7%	3.2%	4.2%	0.0%	0.0%
国際化	2.2%	0.0%	2.2%	2.7%	1.6%	1.7%	1.5%	6.3%
過疎化・人口減少	3.2%	0.0%	3.3%	3.1%	2.7%	3.4%	6.1%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	50.0%	34.1%	25.7%	30.1%	33.9%	34.8%	25.0%
人権問題	2.4%	0.0%	0.0%	2.3%	3.8%	2.5%	1.5%	6.3%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.0%	2.2%	2.7%	1.1%	1.7%	3.0%	0.0%
交通マナー	12.6%	16.7%	12.1%	13.0%	10.2%	11.0%	16.7%	31.3%
その他	2.7%	0.0%	4.4%	4.2%	1.6%	0.0%	3.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%	1.5%	6.3%

回答数の少ない20歳代を除いた全ての年代で、「自治会・子ども会等の運営」の割合が最も高かった。また、「子どもの安全確保」では30・40歳代で、「住民同士の交流」や「高齢化」は60歳代と70歳以上で、他の年代よりも回答割合が高かった。

「防災・防犯」は、年代が上がるに連れて、回答割合が高かった。

工 取組の内容についての過去の調査との比較

【表 13】

具体的な取組の内容 (経年比較)	今回調査 (R1) n=744	前回調査 (H24) n=1,006	今回調査と 前回調査の 増減
防災・防犯	26.7%	28.6%	-1.9%
子どもの安全確保	38.0%	34.0%	4.0%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	20.3%	7.1%
青少年の健全育成	14.7%	18.7%	-4.0%
郷土芸能の伝承	7.4%	10.9%	-3.5%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	45.8%	5.7%
住民同士の交流	22.8%	29.0%	-6.2%
高齢化	15.5%	27.7%	-12.2%
地域ブランド	4.7%	—	—
国際化	2.2%	2.1%	0.1%
過疎化・人口減少	3.2%	3.3%	-0.1%
環境保護・美化	30.1%	32.0%	-1.9%
人権問題	2.4%	4.3%	-1.9%
市街中心部の空洞化	2.0%	4.1%	-2.1%
交通マナー	12.6%	—	—
消費者問題	—	3.9%	—
男女共同参画	—	8.8%	—
その他	2.7%	1.8%	0.9%
無回答	0.5%	—	—

前回調査と比較し、回答割合が最も増加した項目は「家庭教育支援・子育て支援」で、7.1ポイント増加した。次いで、「自治会・子ども会等の運営」で5.7ポイント、「子どもの安全確保」で4.0ポイント、それぞれ増加した。

それに対して、回答割合が最も減少した項目は「高齢化」で12.2ポイント減少した。次いで、「住民同士の交流」が6.2ポイント、「青少年の健全育成」が4.0ポイント、それぞれ減少した。

また、今回調査で新たに追加した「交通マナー」が12.6%と、活動している方が相当数いることが分かる。

《参考：問3「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎学校支援ボランティア

○スポーツ指導

○耕作放棄地への対応

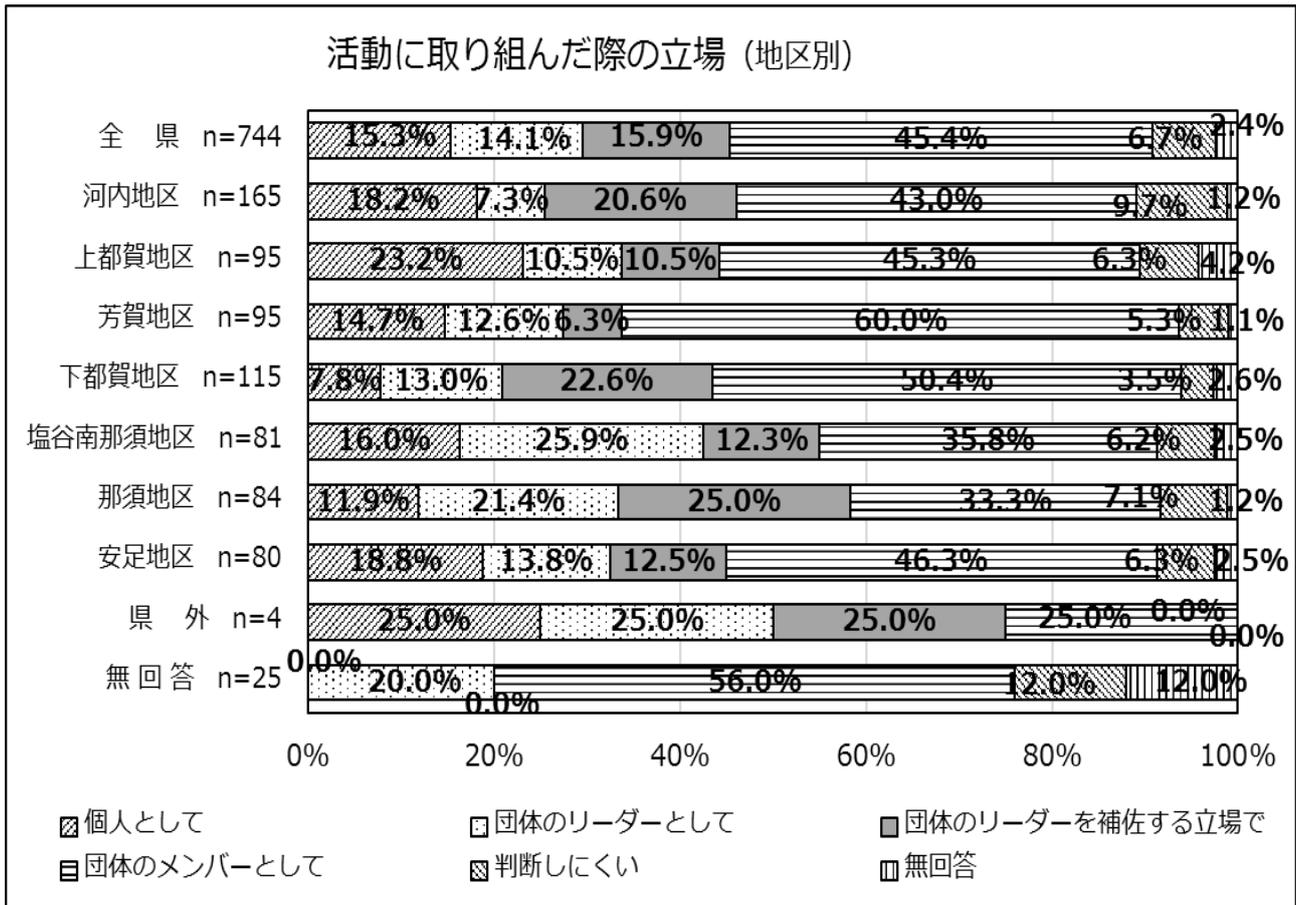
(5) 活動に取り組んだ際の立場

問4 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。活動にはどのような立場で取り組まれています（いました）か。最もよくあてはまる番号1つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 10】

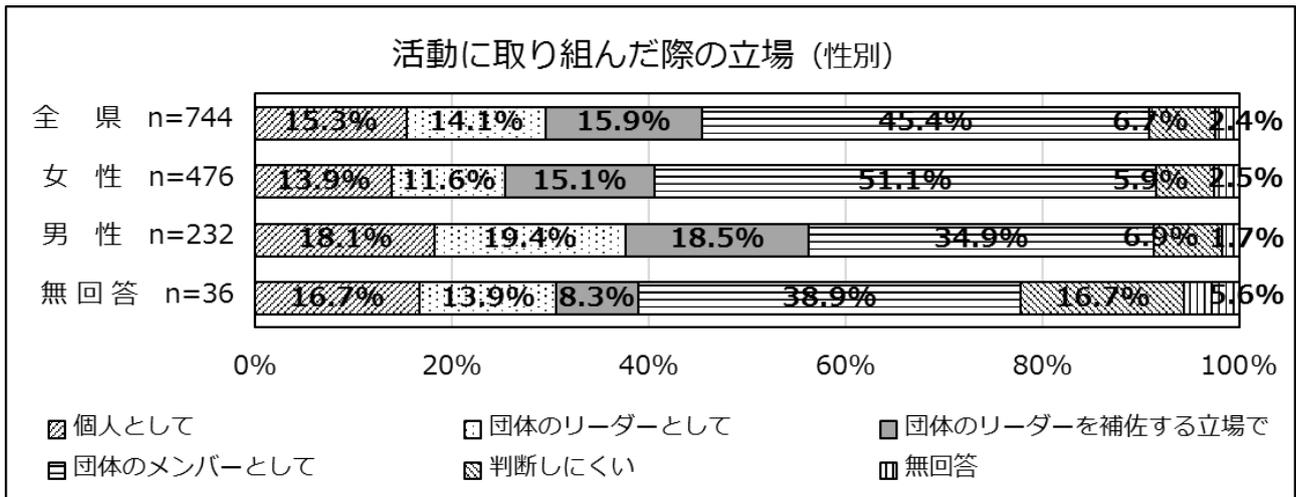


リーダーとして活動経験をもつと回答した割合は、最も高い地区が 25.9%、最も低い地区で 7.3%と 3 倍以上の開きがあった。また、個人で活動していると回答した割合も、最も高い地区が 23.2%、最も低い地区で 7.8%と 3 倍近くの開きがあった。塩谷南那須地区、那須地区で、リーダーとしての活動経験をもつ割合が高い傾向は、前回調査と同様である。

全県でも、個人での活動は 15.3%、団体に所属しての活動が 75.4%と、地域課題解決に向けた活動は、何らかの団体やグループで取り組まれていることが多いことが分かる。

イ 性別にみた状況

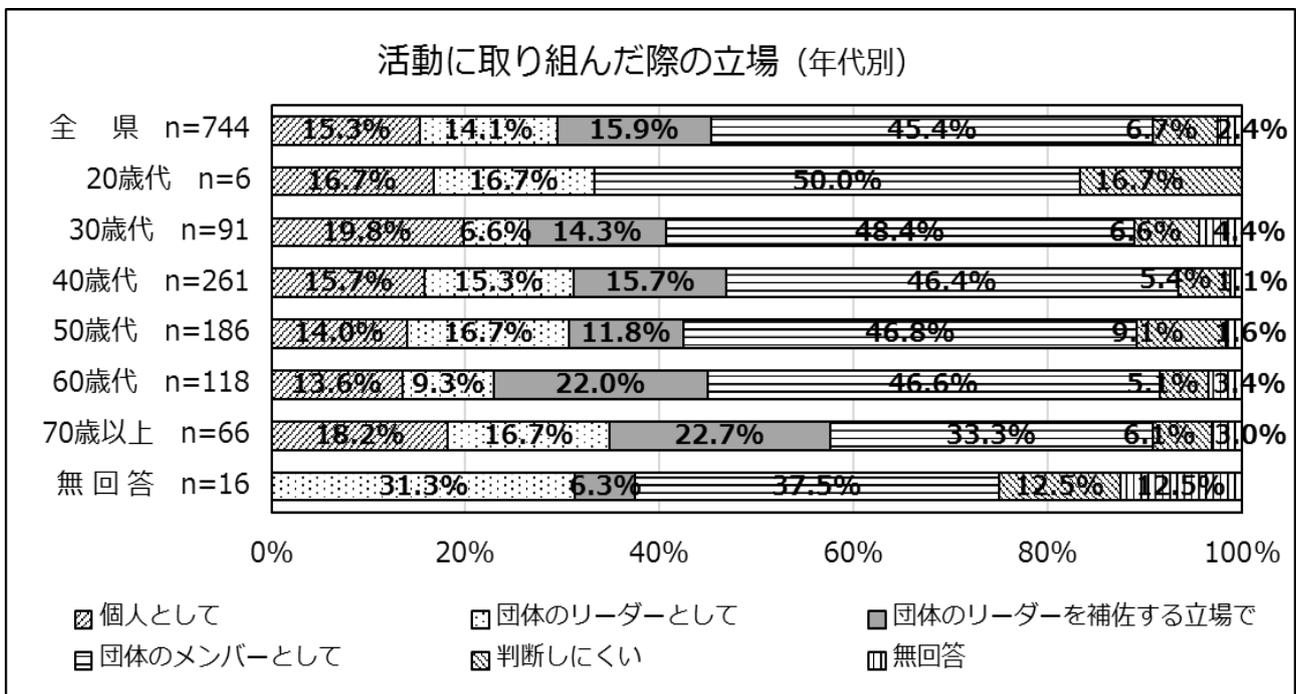
【図 11】



個人として活動する割合は、男性が女性をやや上回った。また、団体においてリーダーを補佐する立場を務める割合においても同様であった。リーダーとしての活動については、男性が女性を約 8 ポイント上回った。一方で、役職に就かないメンバーとして活動すると回答した割合では、女性が男性を約 16 ポイント上回る結果となった。

ウ 年代別にみた状況

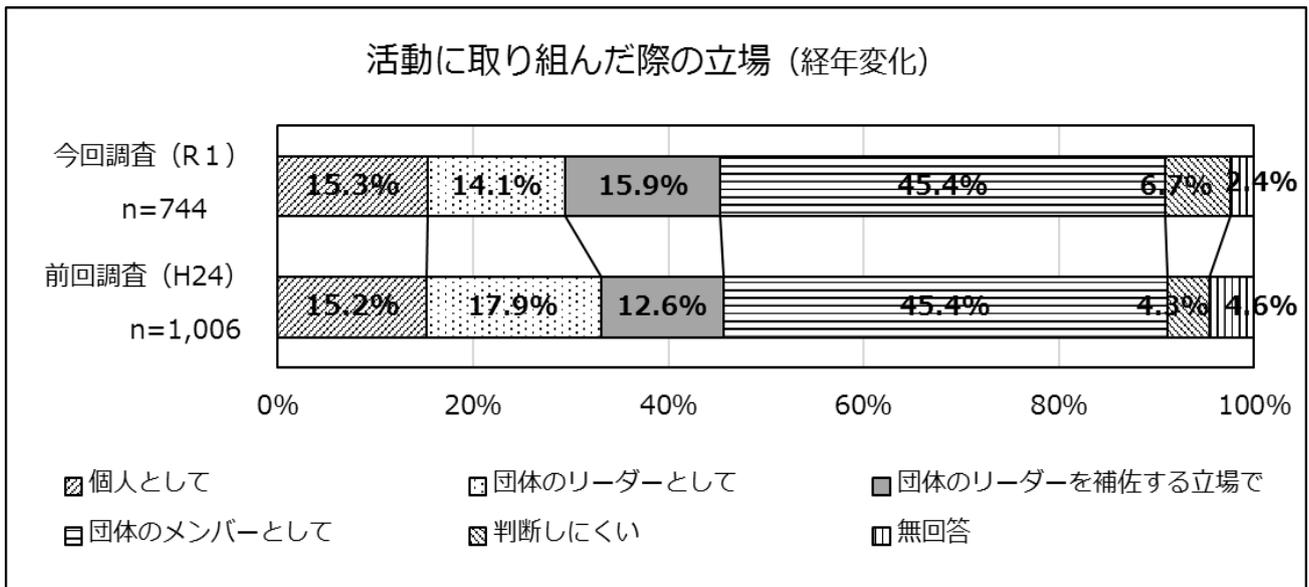
【図 12】



個人で活動している割合は、年代別にみて大きな差はみられない。また、団体に属して活動していると回答した割合は、40 歳代で最も高くなった。リーダーやリーダーを補佐するなど、団体の中心的な立場で活動している割合は、70 歳以上で最も高くなり、次いで 40 歳代となった。

エ 活動に取り組んだ際の立場についての過去の調査との比較

【図 13】



リーダーとリーダーを補佐する立場それぞれで3ポイントほどの差がみられたが、両者はともに団体の中心的な立場であり、その割合に大きな変化はない。したがって、前回調査とほぼ同じような結果であったといえる。

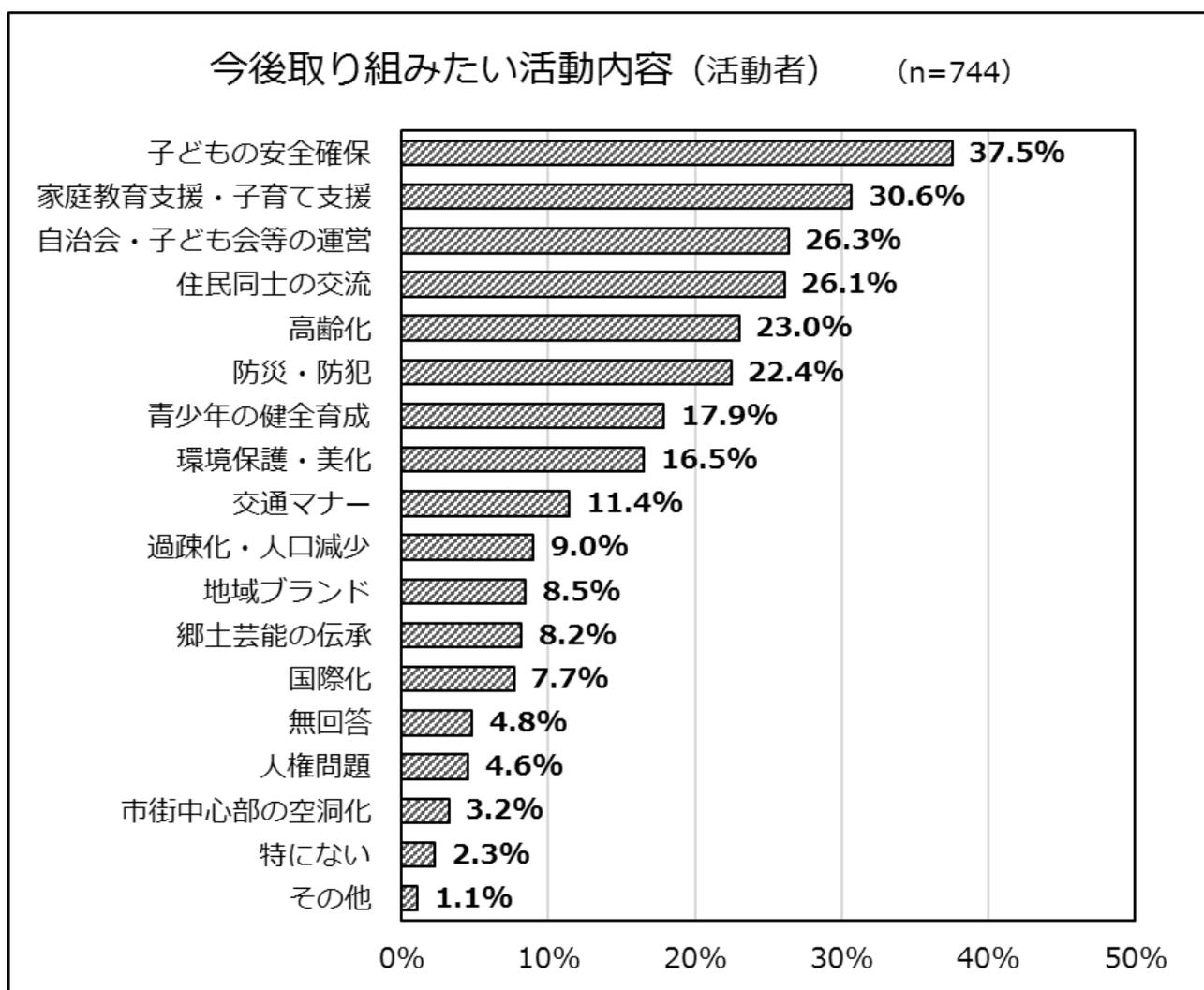
(6) 今後取り組みたい活動内容

問5 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。今後、どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

*設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた取り組みたい活動内容

【図 14】



全県でみると、「子どもの安全確保」が37.5%で回答割合が最も高かった。次いで、「家庭教育支援・子育て支援」「自治会・子ども会等の運営」であった。

【表 14】

取り組みたい活動内容 (地区別)	全 県 n=744	河内地区 n=165	上都賀地区 n=95	芳賀地区 n=95	下都賀地区 n=115	塩谷南那須地区 n=81	那須地区 n=84	安足地区 n=80	県 外 n=4	無 回 答 n=25
防災・防犯	22.4%	22.4%	17.9%	25.3%	25.2%	21.0%	23.8%	21.3%	0.0%	24.0%
子どもの安全確保	37.5%	40.6%	42.1%	38.9%	41.7%	34.6%	25.0%	36.3%	50.0%	28.0%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	27.9%	30.5%	41.1%	32.2%	32.1%	28.6%	26.3%	25.0%	20.0%
青少年の健全育成	17.9%	15.2%	20.0%	17.9%	18.3%	11.1%	26.2%	16.3%	50.0%	20.0%
郷土芸能の伝承	8.2%	6.7%	14.7%	7.4%	8.7%	4.9%	11.9%	3.8%	0.0%	8.0%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	30.3%	24.2%	25.3%	34.8%	17.3%	29.8%	16.3%	50.0%	20.0%
住民同士の交流	26.1%	26.7%	25.3%	23.2%	25.2%	29.6%	42.9%	12.5%	0.0%	20.0%
高齢化	23.0%	26.1%	17.9%	14.7%	23.5%	23.5%	34.5%	20.0%	0.0%	24.0%
地域ブランド	8.5%	4.8%	8.4%	10.5%	7.0%	9.9%	13.1%	10.0%	0.0%	8.0%
国際化	7.7%	8.5%	6.3%	5.3%	8.7%	8.6%	6.0%	8.8%	25.0%	8.0%
過疎化・人口減少	9.0%	3.6%	13.7%	9.5%	8.7%	11.1%	15.5%	7.5%	25.0%	0.0%
環境保護・美化	16.5%	18.8%	12.6%	21.1%	16.5%	13.6%	13.1%	18.8%	0.0%	16.0%
人権問題	4.6%	1.2%	6.3%	4.2%	9.6%	3.7%	3.6%	6.3%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	1.2%	4.2%	0.0%	2.6%	2.5%	3.6%	7.5%	25.0%	12.0%
交通マナー	11.4%	13.3%	12.6%	12.6%	14.8%	7.4%	11.9%	5.0%	25.0%	4.0%
特にない	2.3%	3.0%	0.0%	2.1%	1.7%	4.9%	3.6%	1.3%	0.0%	0.0%
その他	1.1%	0.0%	0.0%	2.1%	0.9%	3.7%	1.2%	0.0%	0.0%	4.0%
無回答	4.8%	4.2%	5.3%	3.2%	4.3%	3.7%	2.4%	6.3%	0.0%	24.0%

地区別にみると、全県で回答割合の最も高かった「子どもの安全確保」は、河内、上都賀、下都賀、塩谷南那須、安足の各地区で最上位であった。また、芳賀地区では「家庭教育支援・子育て支援」が、那須地区では「住民同士の交流」が最上位であった。

項目毎にみると、地区間でのばらつきが多くみられ、回答割合の最も高い那須地区と最も低い安足地区の差が「住民同士の交流」では 30 ポイント以上もあった。他にも、「高齢化」では約 20 ポイント、「自治会・子ども会等の運営」では約 18 ポイント、「子どもの安全確保」では約 17 ポイント、「家庭教育支援・子育て支援」「青少年の健全育成」では約 15 ポイントの差がみられた。

イ 性別にみた取り組みたい活動内容

【表 15】

取り組みたい活動内容 (性別)	全 県 n=744	女 性 n=476	男 性 n=232	無 回 答 n=36
防災・防犯	22.4%	20.6%	25.9%	25.0%
子どもの安全確保	37.5%	38.7%	35.8%	33.3%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	37.6%	17.2%	25.0%
青少年の健全育成	17.9%	15.5%	22.0%	22.2%
郷土芸能の伝承	8.2%	6.3%	12.1%	8.3%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	25.4%	28.9%	22.2%
住民同士の交流	26.1%	26.5%	25.9%	22.2%
高齢化	23.0%	21.2%	25.4%	30.6%
地域ブランド	8.5%	5.0%	15.9%	5.6%
国際化	7.7%	6.7%	8.2%	16.7%
過疎化・人口減少	9.0%	6.3%	15.1%	5.6%
環境保護・美化	16.5%	16.4%	16.4%	19.4%
人権問題	4.6%	4.6%	5.2%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	1.9%	5.2%	8.3%
交通マナー	11.4%	10.5%	13.4%	11.1%
特にない	2.3%	2.5%	1.7%	2.8%
その他	1.1%	0.6%	1.7%	2.8%
無回答	4.8%	5.3%	2.2%	16.7%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、6項目で差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは1項目のみで、「家庭教育支援・子育て支援」で約20ポイントの差があった。それに対して、男性が女性を上回ったものは5項目あり、「地域ブランド」では約10ポイントの差があり、次いで「過疎化・人口減少」「青少年の健全育成」「郷土芸能の伝承」「防災・防犯」であった。

ウ 年代別にみた取り組みたい活動内容

【表 16】

取り組みたい活動内容 (年代別)	全 県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無 回 答 n=16
防災・防犯	22.4%	16.7%	20.9%	19.5%	22.0%	25.4%	31.8%	25.0%
子どもの安全確保	37.5%	33.3%	48.4%	45.2%	35.5%	25.4%	21.2%	7.6%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	16.7%	34.1%	33.3%	34.9%	27.1%	13.6%	4.5%
青少年の健全育成	17.9%	0.0%	12.1%	21.1%	24.7%	10.2%	9.1%	4.5%
郷土芸能の伝承	8.2%	33.3%	8.8%	6.1%	6.5%	14.4%	7.6%	1.5%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	0.0%	24.2%	33.3%	16.7%	28.8%	27.3%	6.1%
住民同士の交流	26.1%	50.0%	18.7%	19.2%	28.5%	38.1%	34.8%	4.5%
高齢化	23.0%	0.0%	8.8%	15.3%	23.7%	39.0%	42.4%	7.6%
地域ブランド	8.5%	16.7%	12.1%	7.3%	9.7%	8.5%	4.5%	1.5%
国際化	7.7%	16.7%	6.6%	9.6%	4.8%	8.5%	6.1%	3.0%
過疎化・人口減少	9.0%	16.7%	3.3%	10.7%	10.8%	8.5%	7.6%	0.0%
環境保護・美化	16.5%	0.0%	15.4%	12.6%	17.2%	18.6%	27.3%	6.1%
人権問題	4.6%	16.7%	8.8%	6.1%	2.2%	4.2%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	16.7%	2.2%	4.2%	1.6%	2.5%	3.0%	3.0%
交通マナー	11.4%	0.0%	9.9%	14.6%	9.7%	8.5%	13.6%	1.5%
特にない	2.3%	0.0%	2.2%	3.1%	2.7%	0.8%	1.5%	0.0%
その他	1.1%	0.0%	2.2%	1.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	4.8%	0.0%	7.7%	3.4%	2.7%	5.1%	6.1%	7.6%

「地域ブランド」では20・30歳代が、「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」では30～50歳代が、「青少年の健全育成」では40・50歳代が、「防災・防犯」「住民同士の交流」「高齢化」「環境保護・美化」では60歳代・70歳以上の回答割合がそれぞれ高くなっている。

《参考：問5「その他」の主な回答記述》

○空き家の活用 ○子どもの交流の場づくり

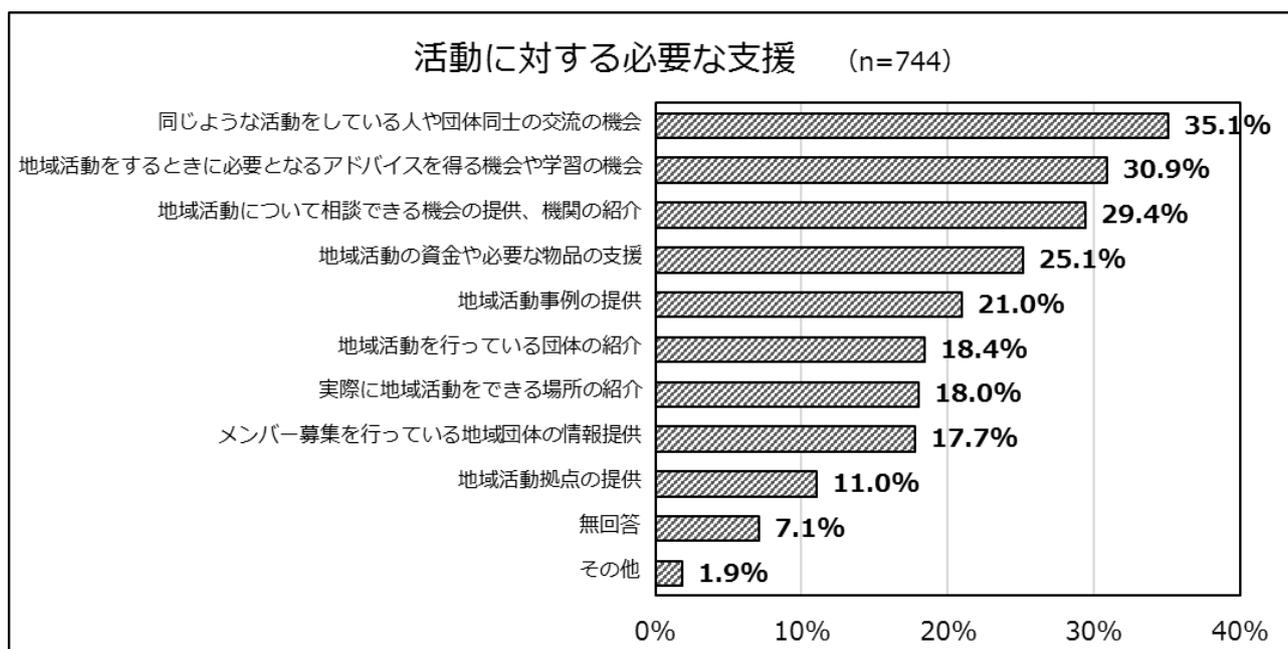
(7) 活動に対する必要な支援

問6 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。どのような手助けがあるとさらに活動に取り組みやすくなると思いますか。あてはまる番号3つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた必要な支援

【図 15】



【表 17】

活動に対する必要な支援 (地区別)	全 県 n=744	河内地区 n=165	上都賀地区 n=95	芳賀地区 n=95	下都賀地区 n=115	塩谷南那須地区 n=81	那須地区 n=84	安足地区 n=80	県 外 n=4	無 回 答 n=25
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	32.1%	27.4%	32.6%	24.3%	29.6%	33.3%	27.5%	50.0%	20.0%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	20.0%	15.8%	14.7%	15.7%	19.8%	15.5%	18.8%	100.0%	16.0%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	17.6%	15.8%	22.1%	19.1%	13.6%	14.3%	21.3%	50.0%	32.0%
実際に地域活動ができる場所の紹介	18.0%	17.0%	12.6%	21.1%	19.1%	25.9%	14.3%	17.5%	25.0%	16.0%
地域活動事例の提供	21.0%	18.8%	20.0%	21.1%	23.5%	21.0%	25.0%	22.5%	25.0%	8.0%
地域活動拠点の提供	11.0%	8.5%	13.7%	6.3%	10.4%	13.6%	14.3%	12.5%	0.0%	16.0%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	35.2%	32.6%	22.1%	25.2%	35.8%	34.5%	32.5%	25.0%	24.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	32.1%	36.8%	33.7%	42.6%	38.3%	31.0%	32.5%	25.0%	32.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	22.4%	28.4%	26.3%	27.8%	23.5%	31.0%	22.5%	0.0%	12.0%
その他	1.9%	2.4%	3.2%	1.1%	0.9%	1.2%	3.6%	1.3%	0.0%	0.0%
無回答	7.1%	7.9%	6.3%	6.3%	7.0%	3.7%	7.1%	6.3%	0.0%	24.0%

全県で見ると、「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」の回答割合が35.1%と最も高く、地区別にみても河内地区、那須地区を除く5つの地区で最上位となった。

次いで、河内、那須、安足の各地区で最上位（安足は最上位に2項目）の「地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」となり、この2項目の回答割合が30%を超えた。また、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」が29.1%、「地域活動の資金や必要な物品の支援」が25.1%と、これらの2項目も高い回答割合となった。

上に挙げた4項目が、順序は違えど各地区の上位4項目となり、地区間による大きな差異はみられなかった。

イ 性別にみた必要な支援

【表 18】

活動に対する必要な支援 (性別)	全 県 n=744	女 性 n=476	男 性 n=232	無 回 答 n=36
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	28.2%	34.1%	16.7%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	18.5%	17.2%	11.1%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	18.9%	17.7%	16.7%
実際に地域活動をできる場所の紹介	18.0%	17.9%	18.5%	16.7%
地域活動事例の提供	21.0%	21.0%	22.4%	11.1%
地域活動拠点の提供	11.0%	11.3%	11.2%	5.6%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	32.8%	28.0%	25.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	36.3%	34.1%	25.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	23.7%	27.6%	27.8%
その他	1.9%	1.1%	3.4%	2.8%
無回答	7.1%	6.1%	5.6%	30.6%

「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」が、男性が女性を約6ポイント上回ったが、それ以外の項目については性別による大きな差異はみられなかった。

ウ 年代別にみた必要な支援

【表 19】

活動に対する必要な支援 (年代別)	全 県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無 回 答 n=16
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	33.3%	28.6%	28.7%	34.4%	26.3%	28.8%	12.5%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	16.7%	16.5%	19.9%	19.9%	16.9%	9.1%	6.3%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	33.3%	17.6%	19.2%	18.8%	16.9%	13.6%	31.3%
実際に地域活動ができる場所の紹介	18.0%	33.3%	15.4%	16.1%	18.3%	20.3%	22.7%	18.8%
地域活動事例の提供	21.0%	0.0%	19.8%	24.5%	16.7%	19.5%	28.8%	6.3%
地域活動拠点の提供	11.0%	0.0%	9.9%	10.0%	14.0%	10.2%	12.1%	6.3%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	0.0%	26.4%	30.7%	28.5%	40.7%	31.8%	25.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	0.0%	36.3%	37.5%	36.0%	33.9%	28.8%	25.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	50.0%	27.5%	23.0%	30.6%	22.0%	22.7%	6.3%
その他	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	2.7%	1.7%	3.0%	0.0%
無回答	7.1%	0.0%	9.9%	3.8%	4.3%	7.6%	15.2%	43.8%

「地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」が 60 歳代で 40.7%と、他の年代と比較して回答割合が高かった。仕事を退職して、地域に意識が向いたり、地域活動を始めたいと考えたりする年代だからこそ、必要な支援だろう。他の項目については、年代間の大きな差異はみられなかった。

《参考：問 6 「その他」の主な回答記述》

○スタッフを募集する際の広報活動

○地元企業・行政・住民の合同会議

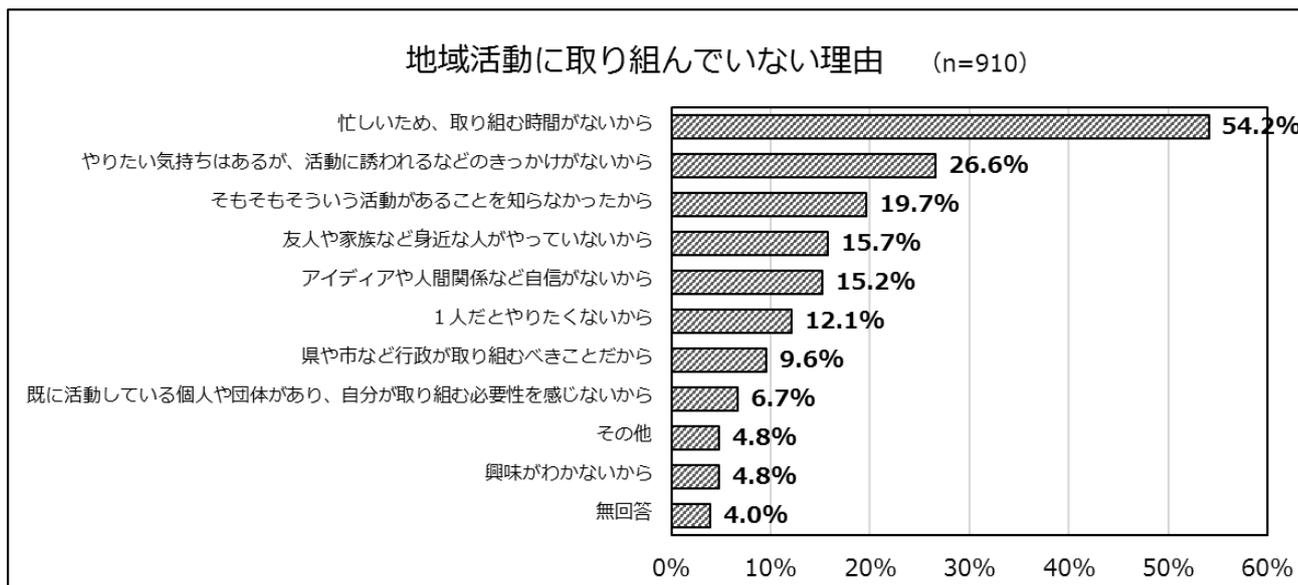
(8) 地域活動に取り組んでいない理由

問7 問2で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組まれている理由は何ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 16】



【表 20】

取り組んでいない理由 (地区別)	全 県 n=910	河内地区 n=164	上都賀地区 n=82	芳賀地区 n=149	下都賀地区 n=161	塩谷南那須地区 n=103	那須地区 n=113	安足地区 n=103	県 外 n=4	無 回 答 n=31
忙しいため、 取り組む時間がないから	54.2%	51.2%	53.7%	51.0%	47.8%	58.3%	57.5%	65.0%	75.0%	54.8%
友人や家族など身近な人が やっていないから	15.7%	18.9%	15.9%	16.1%	18.6%	12.6%	13.3%	12.6%	25.0%	9.7%
1人だとやりたくないから	12.1%	12.2%	11.0%	15.4%	13.7%	11.7%	9.7%	11.7%	25.0%	0.0%
やりたい気持ちはあるが、活動に 誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	28.0%	22.0%	24.2%	32.9%	23.3%	23.9%	26.2%	50.0%	29.0%
アイデアや人間関係など 自信がないから	15.2%	15.2%	17.1%	18.1%	18.6%	11.7%	14.2%	8.7%	25.0%	12.9%
そもそもそういう活動があることを 知らなかったから	19.7%	21.3%	7.3%	28.9%	14.9%	19.4%	20.4%	24.3%	25.0%	6.5%
既に活動している個人や団体があり、 自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	11.0%	9.8%	4.0%	4.3%	5.8%	8.0%	2.9%	0.0%	12.9%
県や市など行政が取り組むべき ことだから	9.6%	4.9%	13.4%	14.1%	9.9%	11.7%	8.0%	7.8%	0.0%	6.5%
興味がわからないから	4.8%	3.7%	6.1%	6.0%	4.3%	4.9%	6.2%	2.9%	0.0%	6.5%
その他	4.8%	5.5%	4.9%	4.7%	6.2%	2.9%	4.4%	3.9%	0.0%	6.5%
無回答	4.0%	6.1%	3.7%	3.4%	3.7%	4.9%	3.5%	1.0%	0.0%	6.5%

地域活動の解決に向けた活動に取り組んだ経験がないと回答した 910 名に、その理由について質問した。

全ての地区で、「忙しいため、取り組む時間がないから」という回答割合が最も高く、全県で 54.2%であった。次いで、「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」で、全県で 26.6%であり、芳賀地区を除いた 6 地区で、2 番目に高い回答割合であった。

イ 性別にみた状況

【表 21】

取り組んでいない理由 (性別)	全 県	女 性	男 性	無 回 答
	n=910	n=580	n=284	n=46
忙しいため、 取り組む時間がないから	54.2%	51.6%	59.2%	56.5%
友人や家族など身近な人が やっていないから	15.7%	16.6%	16.2%	2.2%
1人だとやりたくないから	12.1%	11.9%	14.1%	2.2%
やりたい気持ちはあるが、活動に 誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	26.9%	25.7%	28.3%
アイデアや人間関係など 自信がないから	15.2%	16.4%	13.7%	8.7%
そもそもそういう活動があることを 知らなかったから	19.7%	19.8%	19.7%	17.4%
既に活動している個人や団体があり、 自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	6.2%	7.7%	6.5%
県や市など行政が取り組むべき ことだから	9.6%	9.3%	10.2%	8.7%
興味がわからないから	4.8%	4.7%	4.9%	6.5%
その他	4.8%	5.2%	3.5%	8.7%
無回答	4.0%	5.0%	1.4%	6.5%

「忙しいため、取り組む時間がないから」が、男性が女性を約 8 ポイント上回った。それ以外の項目については、性別による差異はみられなかった。

ウ 年代別にみた状況

【表 22】

取り組んでいない理由 (年代別)	全 県	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無 回 答
	n=910	n=22	n=157	n=242	n=214	n=182	n=72	n=21
忙しいため、 取り組む時間がないから	54.2%	54.5%	58.6%	55.4%	73.4%	35.7%	30.6%	52.4%
友人や家族など身近な人が やっていないから	15.7%	13.6%	19.1%	14.0%	12.1%	20.3%	16.7%	4.8%
1人だとやりたくないから	12.1%	9.1%	12.1%	11.6%	10.3%	17.6%	9.7%	0.0%
やりたい気持ちはあるが、活動に 誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	22.7%	21.7%	21.5%	20.6%	40.1%	37.5%	33.3%
アイデアや人間関係など 自信がないから	15.2%	27.3%	15.3%	14.5%	10.7%	21.4%	12.5%	9.5%
そもそもそういう活動があることを 知らなかったから	19.7%	18.2%	26.1%	25.2%	10.7%	18.1%	20.8%	9.5%
既に活動している個人や団体があり、 自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	4.5%	2.5%	5.0%	8.9%	9.3%	8.3%	9.5%
県や市など行政が取り組むべき ことだから	9.6%	0.0%	15.3%	9.1%	10.7%	8.2%	2.8%	4.8%
興味がわからないから	4.8%	13.6%	4.5%	3.7%	5.6%	4.9%	5.6%	0.0%
その他	4.8%	9.1%	4.5%	3.7%	5.6%	4.4%	5.6%	9.5%
無回答	4.0%	0.0%	1.3%	2.9%	1.4%	7.7%	11.1%	9.5%

全ての年代で、「忙しいため、取り組む時間がないから」の割合が最も高かったが、とりわけ50歳代で73.4%と突出している。30・40歳代では「そもそもそういう活動があることを知らなかったから」が、60歳代・70歳以上では「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」の回答割合が高かった。

工 取り組んでいない理由についての過去の調査との比較
【表 23】

取り組んでいない理由 (経年比較)	今回調査 (R1)	前回調査 (H24)	今回調査と 前回調査の 増減
	n=910	n=1,778	
忙しいため、 取り組む時間がないから	54.2%	49.7%	4.5%
友人や家族など身近な人が やっていないから	15.7%	—	—
1人だとやりたくないから (前回調査：仲間がいないから)	12.1%	24.7%	-12.6%
やりたい気持ちはあるが、活動に 誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	—	—
アイデアや人間関係など 自信がないから	15.2%	23.5%	-8.3%
そもそもそういう活動があることを 知らなかったから	19.7%	—	—
既に活動している個人や団体があり、 自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	8.2%	-1.5%
県や市など行政が取り組むべき ことだから	9.6%	12.5%	-2.9%
興味がわからないから	4.8%	10.6%	-5.8%
その他	4.8%	5.8%	-1.0%
無回答	4.0%	—	—

前回調査と比較して選択肢を増やした（一部変更した）ので単純比較はできないが、やはり「忙しいため、取り組む時間がないから」という理由が、前回調査に続いて回答割合が最も高い項目となった。

残りの項目は全て前回調査よりも回答割合が減少した。しかし、今回調査に新たに追加した項目「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」が約 27%、「そもそもそういう活動があることを知らなかった」が約 20%と回答割合が高かった。

《参考：問7「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

- ◎ どう取り組んでいいかわからないから
- ◎ 家庭内に介護する人がいるため
- ◎ 小さな子どもがいて活動ができるかわからないから
- ◎ 引っ越して間がなく地域になじめていないから
- 個人で解決できる課題ではないため
- 情報が少ないから
- 高齢で自分のことで精一杯であるから

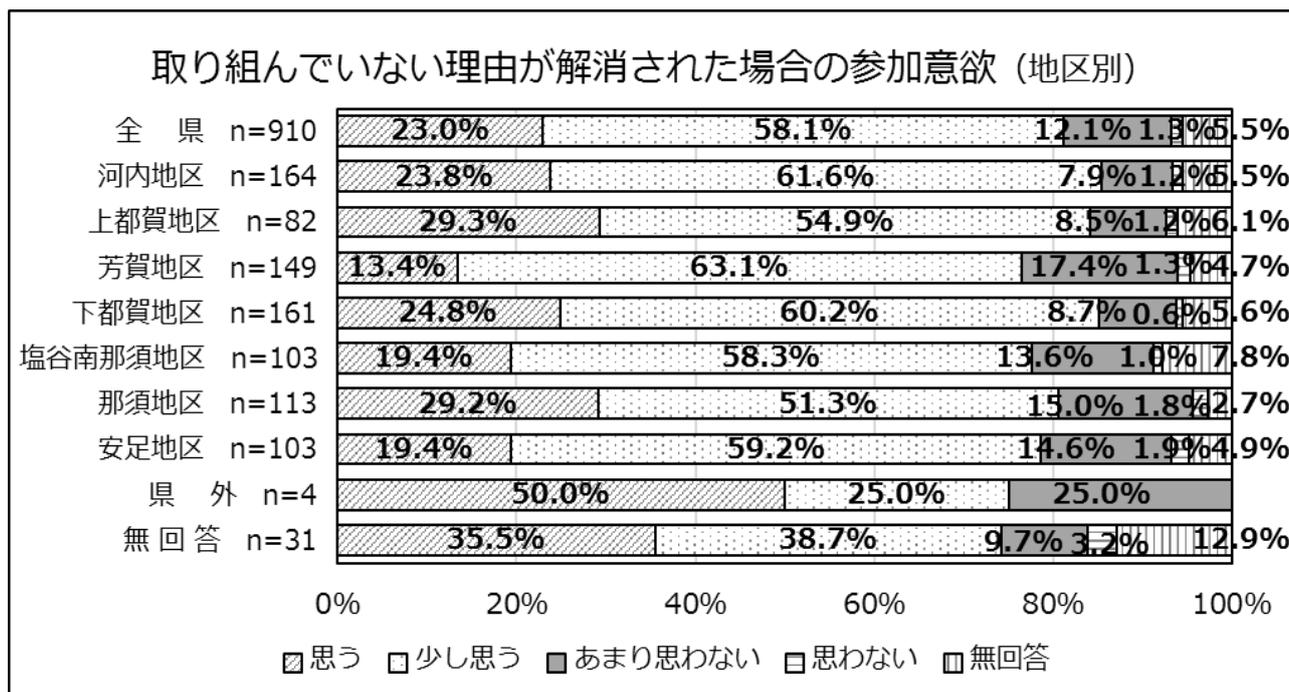
(9) 取り組んでいない理由が解消された場合の参加意欲

問8 問2で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組んでいない理由が解消された場合、地域課題解決に向けた活動に取り組もうと思えますか。最もよくあてはまる番号1つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 17】

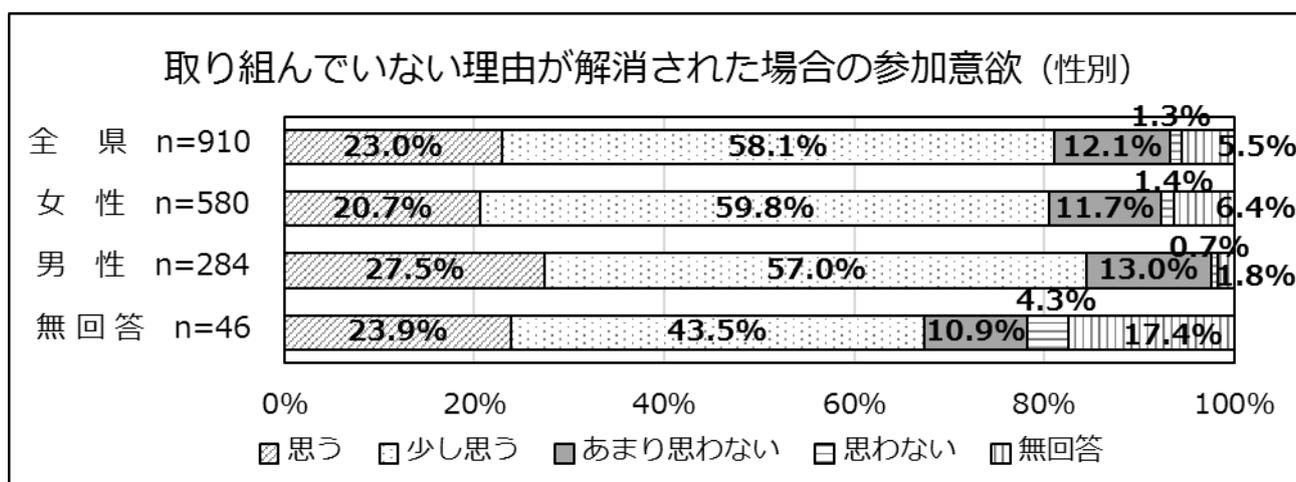


「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」それぞれの割合は、地区間により多少のばらつきはあるが、両者の回答割合の合計は各地区で80%前後であった。

全県でみると、「取り組もうと思う」が約23%、「取り組もうと少し思う」が約58%となった。

イ 性別にみた状況

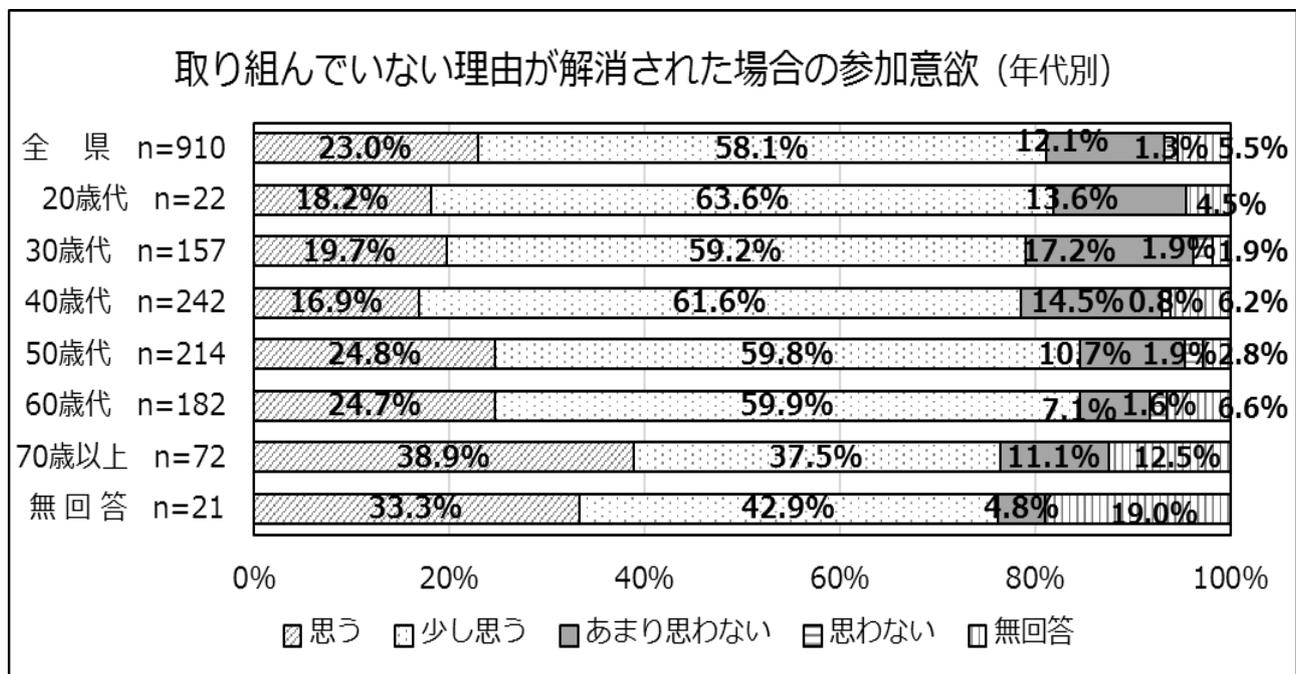
【図 18】



「取り組もうと思う」と積極的な意欲を示す回答割合は、男性が女性を約7ポイント上回った。「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の合計でも、男性が女性を約4ポイント上回っている。

ウ 年代別に見た状況

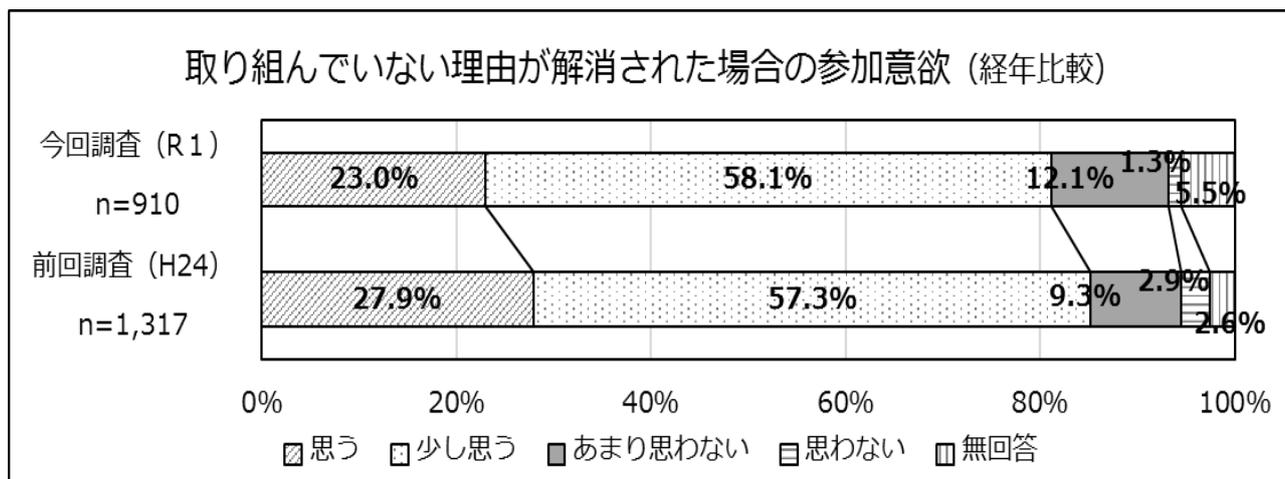
【図 19】



「取り組もうと思う」と積極的な意欲を示す回答は、多少のばらつきがあるものの、基本的に年代が上がるにつれて回答割合が高くなった。「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の合計は、各年代とも80%前後の回答割合となった。特に、50・60歳代は、85%に近い回答割合となった。

工 取り組まない理由が解消された場合の参加意欲についての過去の調査との比較

【図 20】



「取り組もうと思う」と積極的に参加する意欲を示す回答割合は、前回調査より約 5 ポイント減少した。また、「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の回答割合の合計も、前回調査より約 4 ポイント減少した。

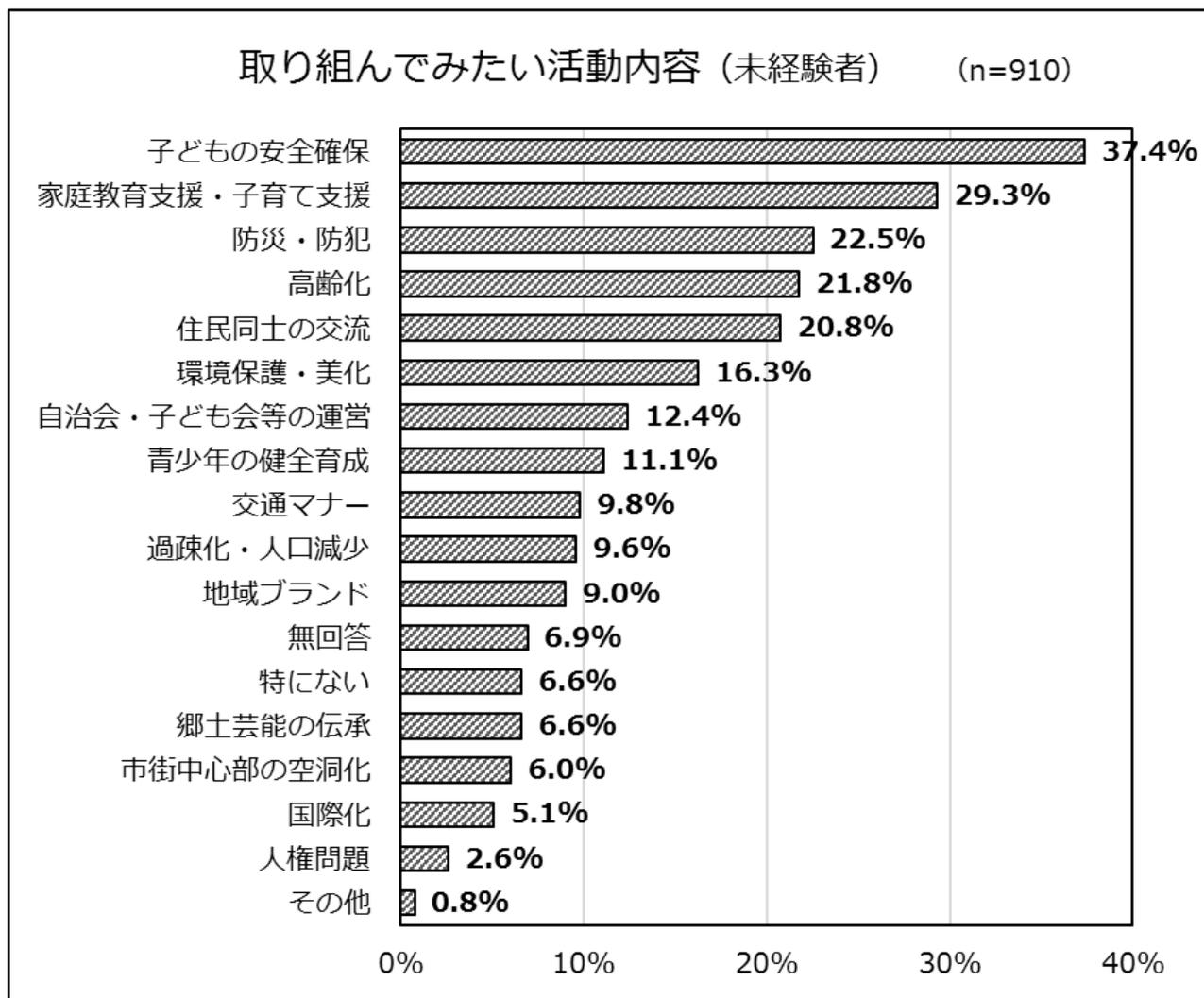
(10) 活動未経験者の取り組んでみたい活動内容

問9 問2で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。どのような活動であれば、取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

*設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 21】



全県で見ると、「子どもの安全確保」の回答割合が約37%と最も高く、唯一30%を超えた。次いで、「家庭教育支援」「防災・防犯」となった。

【表 24】

取り組んでみたい活動内容 (地区別)	全 県 n=910	河内地区 n=164	上都賀地区 n=82	芳賀地区 n=149	下都賀地区 n=161	塩谷南那須地区 n=103	那須地区 n=113	安足地区 n=103	県 外 n=4	無 回 答 n=31
防災・防犯	22.5%	31.7%	19.5%	18.1%	23.6%	24.3%	23.0%	16.5%	50.0%	6.5%
子どもの安全確保	37.4%	32.3%	36.6%	52.3%	36.0%	32.0%	38.9%	34.0%	50.0%	22.6%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	22.0%	22.0%	37.6%	31.1%	28.2%	23.0%	39.8%	50.0%	29.0%
青少年の健全育成	11.1%	11.0%	6.1%	10.1%	13.0%	5.8%	16.8%	12.6%	25.0%	9.7%
郷土芸能の伝承	6.6%	7.9%	6.1%	6.0%	5.6%	6.8%	8.8%	6.8%	0.0%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	12.2%	11.0%	15.4%	13.7%	11.7%	11.5%	11.7%	0.0%	6.5%
住民同士の交流	20.8%	33.5%	19.5%	11.4%	24.2%	18.4%	20.4%	11.7%	50.0%	19.4%
高齢化	21.8%	34.8%	18.3%	10.1%	24.2%	18.4%	20.4%	18.4%	25.0%	32.3%
地域ブランド	9.0%	7.9%	12.2%	8.7%	9.3%	7.8%	12.4%	7.8%	0.0%	3.2%
国際化	5.1%	6.7%	6.1%	3.4%	7.5%	1.0%	3.5%	4.9%	25.0%	6.5%
過疎化・人口減少	9.6%	3.0%	17.1%	10.1%	7.5%	11.7%	15.0%	7.8%	25.0%	9.7%
環境保護・美化	16.3%	22.6%	15.9%	10.7%	16.8%	18.4%	15.9%	11.7%	25.0%	16.1%
人権問題	2.6%	1.2%	7.3%	3.4%	2.5%	1.9%	2.7%	1.9%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	6.0%	3.7%	11.0%	6.0%	5.6%	5.8%	7.1%	4.9%	25.0%	6.5%
交通マナー	9.8%	14.0%	8.5%	6.0%	12.4%	8.7%	8.8%	10.7%	0.0%	0.0%
特にない	6.6%	4.9%	3.7%	8.7%	4.3%	7.8%	9.7%	5.8%	50.0%	6.5%
その他	0.8%	0.6%	1.2%	2.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.9%	4.9%	7.3%	6.7%	5.0%	11.7%	4.4%	9.7%	0.0%	12.9%

地区別にみると、全県で最上位だった「子どもの安全確保」は、河内、安足を除いた5地区で最上位となっており、特に芳賀地区では50%を超えた。また、安足地区では「家庭教育支援」、河内地区では、「高齢化」が最上位となった。

項目毎にみると、「高齢化」が最も回答割合の高い地区と低い地区の差が約25ポイント、「住民同士の交流」で約22ポイントの差があった（県外、無回答は除く）。

イ 性別にみた状況

【表 25】

取り組んでみたい活動内容 (性別)	全 県 n=910	女 性 n=580	男 性 n=284	無 回 答 n=46
防災・防犯	22.5%	19.5%	30.6%	10.9%
子どもの安全確保	37.4%	39.7%	32.4%	39.1%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	37.8%	14.1%	17.4%
青少年の健全育成	11.1%	10.9%	12.7%	4.3%
郷土芸能の伝承	6.6%	6.4%	7.4%	4.3%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	12.8%	12.3%	8.7%
住民同士の交流	20.8%	16.4%	28.9%	26.1%
高齢化	21.8%	19.0%	27.1%	23.9%
地域ブランド	9.0%	7.8%	12.7%	2.2%
国際化	5.1%	5.2%	4.9%	4.3%
過疎化・人口減少	9.6%	5.7%	16.9%	13.0%
環境保護・美化	16.3%	16.0%	17.3%	13.0%
人権問題	2.6%	2.9%	2.1%	2.2%
市街中心部の空洞化	6.0%	5.3%	7.0%	8.7%
交通マナー	9.8%	10.0%	10.6%	2.2%
特にない	6.6%	6.4%	6.0%	13.0%
その他	0.8%	0.9%	0.7%	0.0%
無回答	6.9%	8.4%	2.5%	15.2%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、6項目に差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは2項目で、特に「家庭教育支援・子育て支援」では、約24ポイントの差があった。それに対して、男性が女性を上回ったものは4項目あり、中でも「防災・防犯」「住民同士の交流」「過疎化・人口減少」では10ポイント以上の差があった。

ウ 年代別に見た状況

【表 26】

取り組んでみたい活動内容 (年代別)	全 県 n=910	20歳代 n=22	30歳代 n=157	40歳代 n=242	50歳代 n=214	60歳代 n=182	70歳以上 n=72	無 回 答 n=21
防災・防犯	22.5%	4.5%	22.9%	19.8%	21.5%	24.2%	37.5%	14.3%
子どもの安全確保	37.4%	40.9%	61.8%	40.9%	39.3%	17.6%	19.4%	23.8%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	40.9%	42.7%	31.4%	29.0%	19.8%	19.4%	14.3%
青少年の健全育成	11.1%	9.1%	15.3%	10.7%	15.0%	7.1%	4.2%	4.8%
郷土芸能の伝承	6.6%	22.7%	5.1%	3.3%	9.3%	8.2%	5.6%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	18.2%	17.8%	14.9%	9.8%	9.9%	8.3%	0.0%
住民同士の交流	20.8%	22.7%	12.7%	14.5%	15.4%	34.1%	40.3%	23.8%
高齢化	21.8%	13.6%	7.6%	9.9%	22.0%	37.9%	50.0%	33.3%
地域ブランド	9.0%	22.7%	8.9%	8.7%	13.1%	6.0%	2.8%	4.8%
国際化	5.1%	4.5%	5.1%	5.8%	4.7%	4.4%	4.2%	9.5%
過疎化・人口減少	9.6%	13.6%	8.9%	10.3%	8.4%	9.9%	9.7%	9.5%
環境保護・美化	16.3%	13.6%	15.3%	9.1%	17.8%	22.0%	22.2%	23.8%
人権問題	2.6%	4.5%	3.8%	2.9%	2.3%	2.2%	1.4%	0.0%
市街中心部の空洞化	6.0%	9.1%	4.5%	7.4%	5.1%	6.0%	6.9%	4.8%
交通マナー	9.8%	4.5%	13.4%	10.3%	6.1%	11.0%	12.5%	0.0%
特にない	6.6%	0.0%	8.9%	8.3%	7.9%	3.8%	2.8%	0.0%
その他	0.8%	0.0%	0.6%	1.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.9%	4.5%	3.8%	9.5%	4.2%	6.6%	11.1%	19.0%

「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」では 20～50 歳代が、「防災・防犯」「住民同士の交流」「高齢化」「環境保護・美化」では 60 歳代・70 歳以上の回答割合がそれぞれ高かった。

《参考：問 9 「その他」の主な回答記述》

- 介護予防、健康づくりへの取組
- 子どもの居場所づくり（子ども食堂の運営等）
- 若者が戻りやすい環境づくり

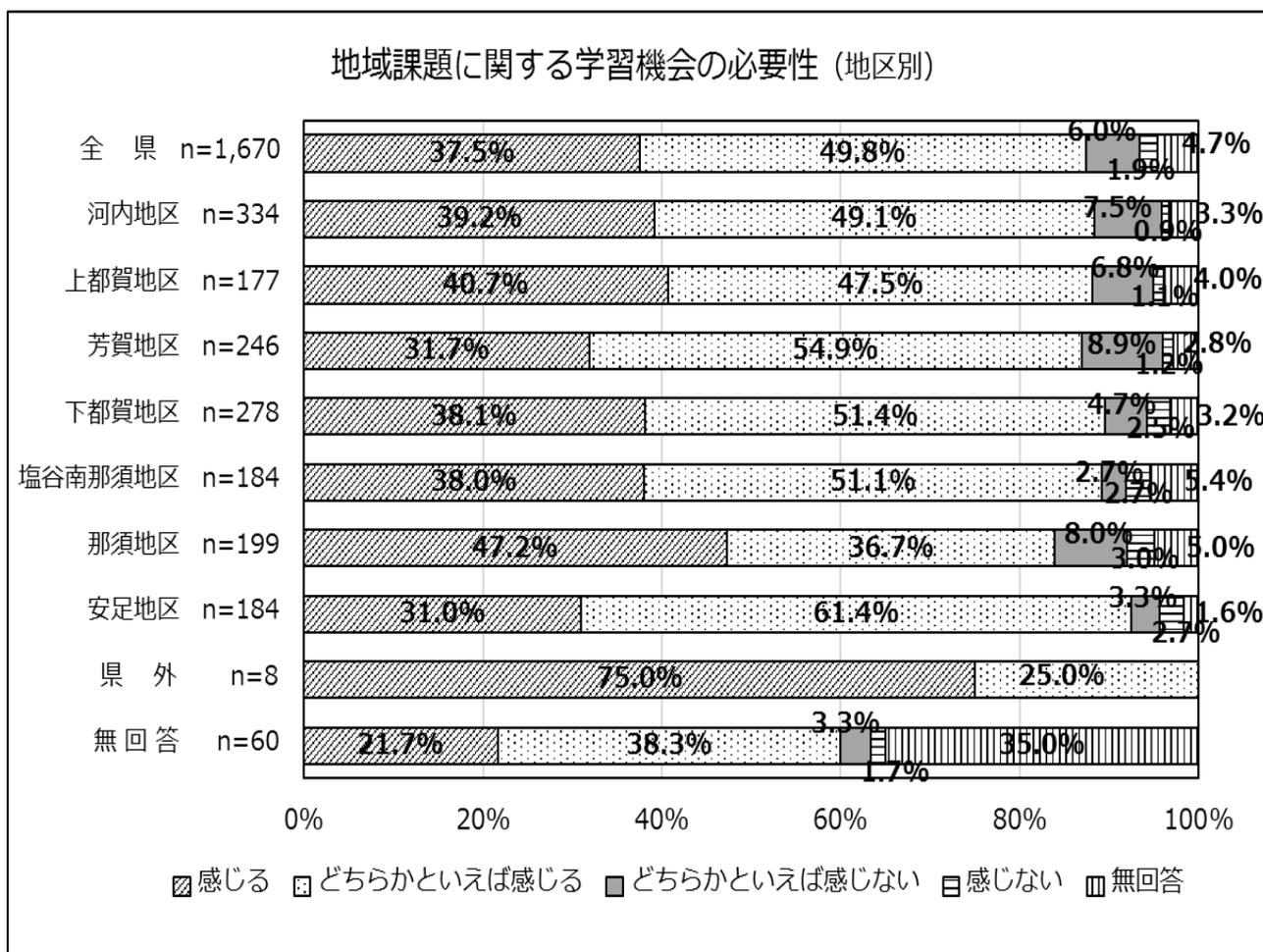
(11) 地域課題に関する学習機会の必要性

問 10 地域課題に関して学習する機会の必要性を感じますか。最もよくあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

*設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

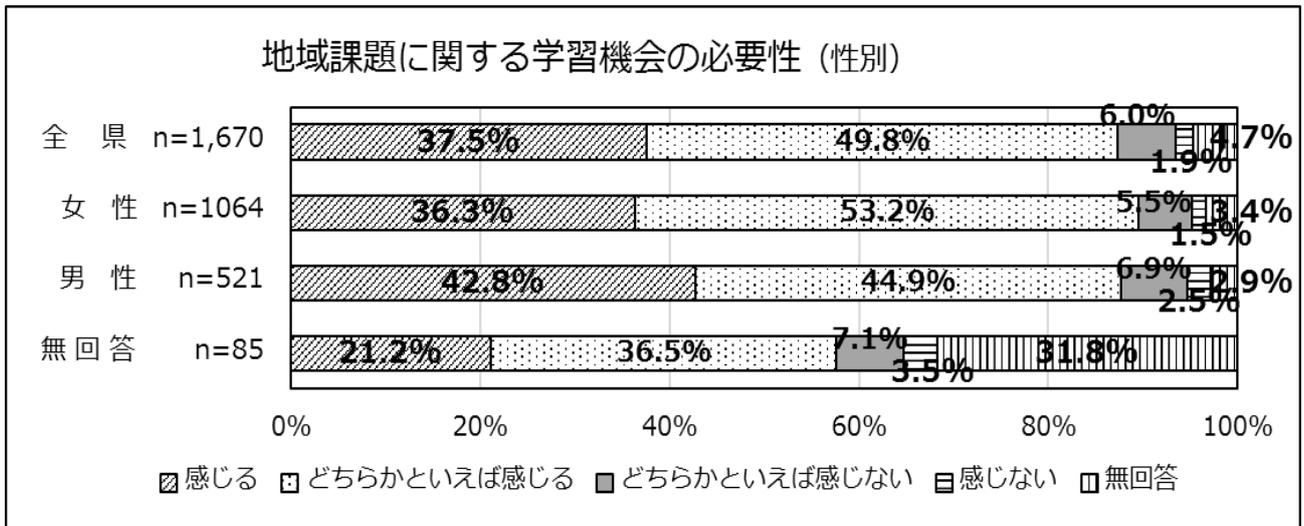
【図 22】



学習機会の必要性を「感じる」「どちらかといえば感じる」それぞれの割合は、地区間により多少のばらつきはあるが、両者の回答割合の合計は各地区で80%を超えた。特に、那須地区で「感じる」と回答した割合が約47%と、全県での37.5%を約10ポイントも上回っていることや、安足地区で「感じる」「どちらかといえば感じる」の回答割合の合計が90%を超えていることがみえてくる。

イ 性別にみた状況

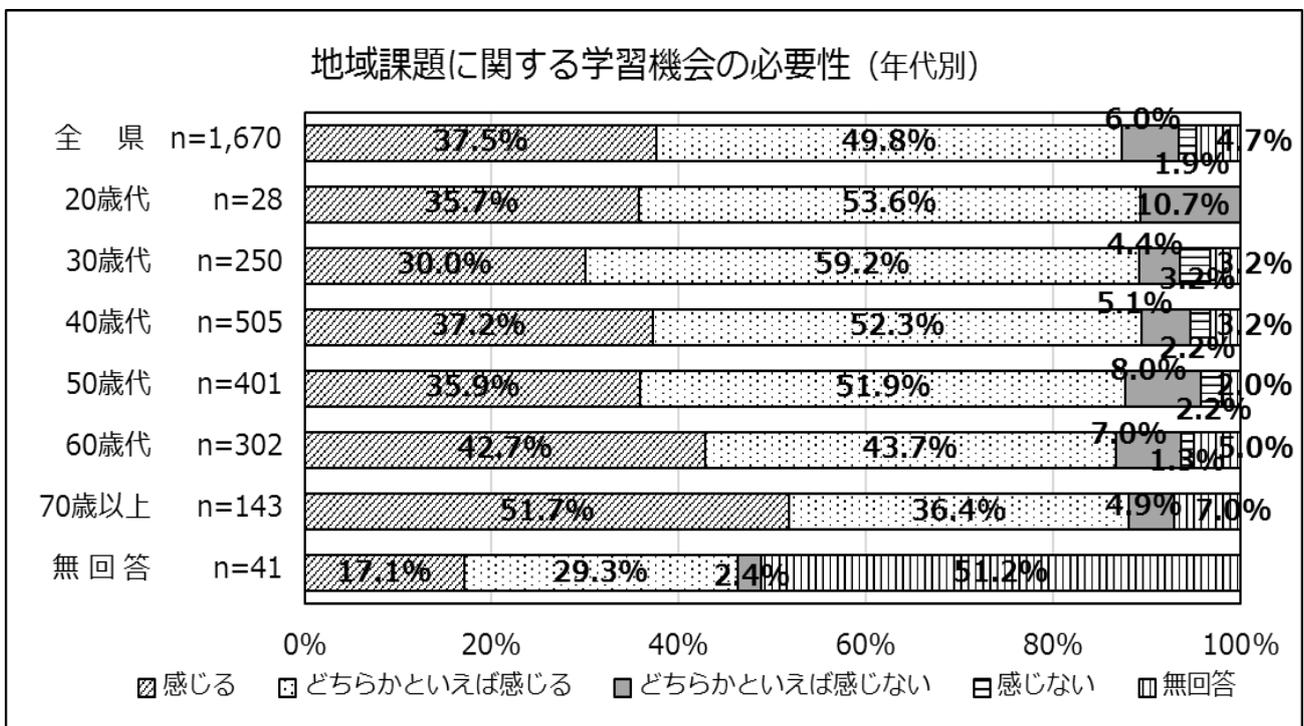
【図 23】



「感じる」と回答した割合は、男性が女性を 6.5 ポイント上回った。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の合計での回答割合では、女性が男性を約 2 ポイント上回った。

ウ 年代別に見た状況

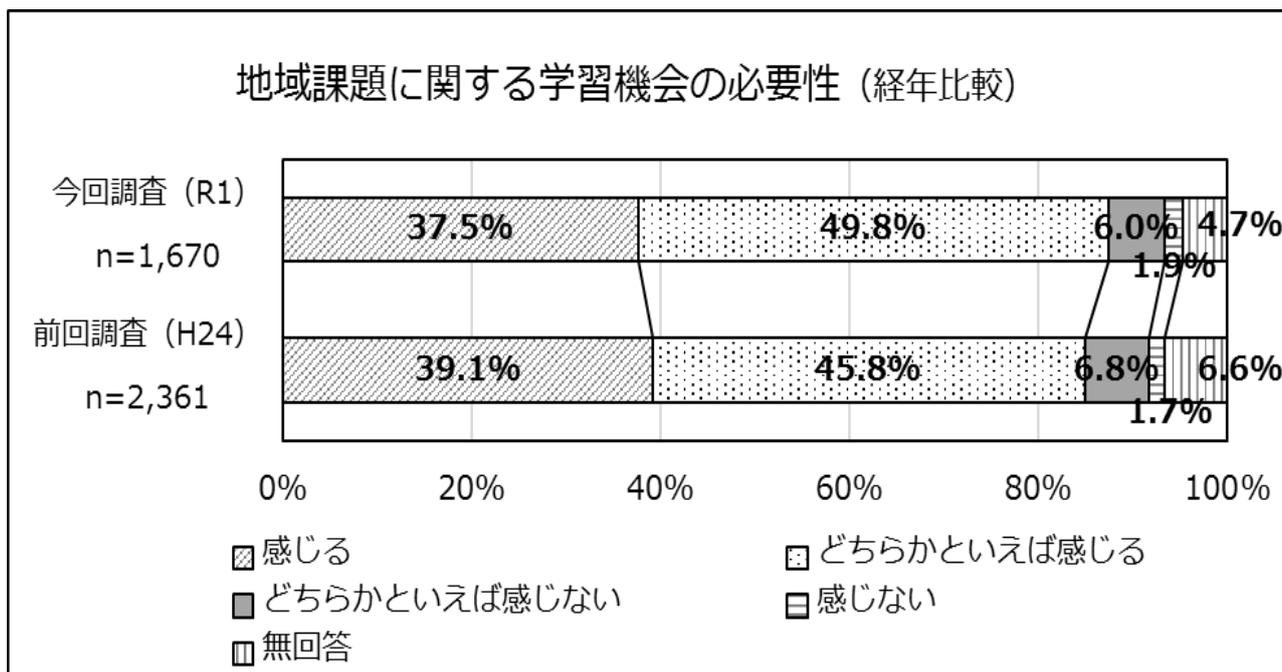
【図 24】



「感じる」と回答した割合は 60 歳代・70 歳以上で高く、特に 70 歳以上では過半数である。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の回答割合の合計は、どの年代も 85 ~90%であり、年代間による大きな差異はみられない。

工 地域課題に関する学習機会の必要性についての過去の調査との比較

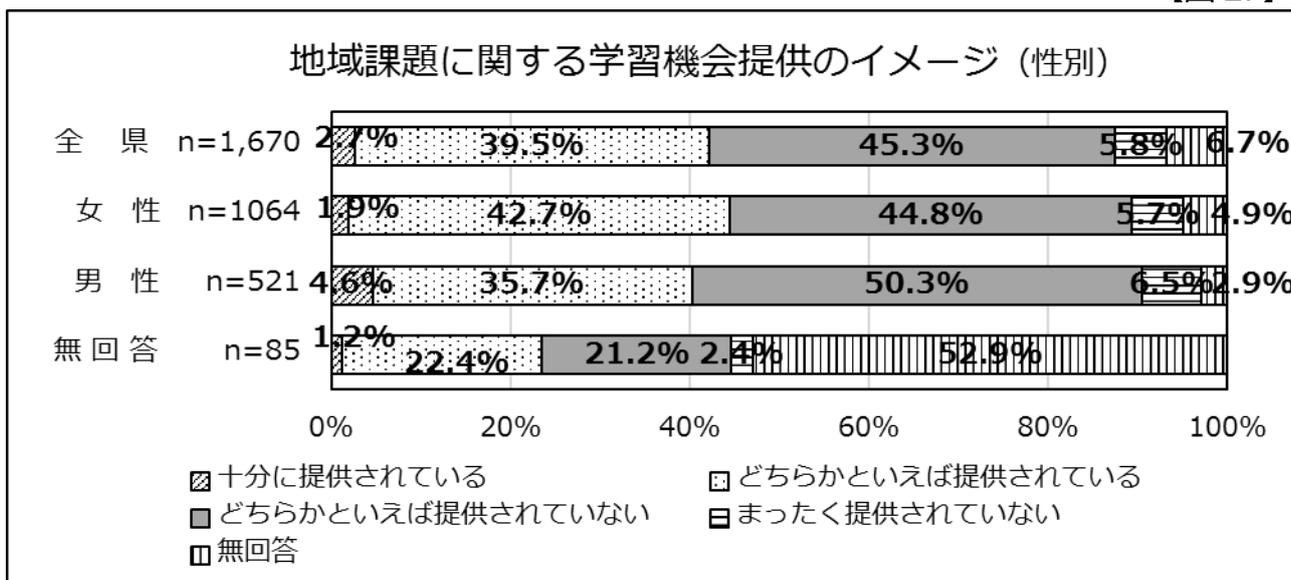
【図 25】



「感じる」と回答した割合は、前回調査と比較し 1.6 ポイント減少した。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の回答割合の合計では、前回調査と比較し 2.4 ポイント増加しており、前回調査よりも、さらに地域課題に関する学習機会を求めるニーズは高まっているといえるだろう。

イ 性別にみた状況

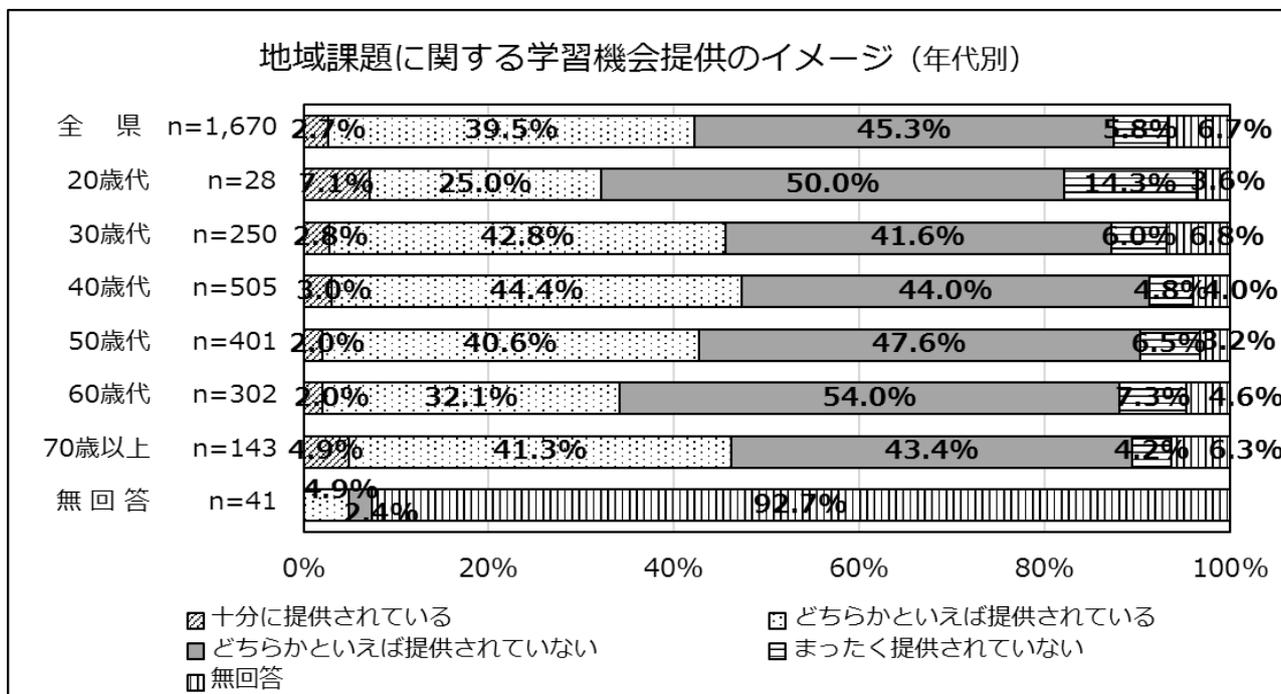
【図 27】



「十分提供されている」「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージは、女性が男性よりも 4.3 ポイント上回った。それに対応して、「どちらかといえば提供されていない」「まったく提供されていない」という否定的なイメージは、男性が女性よりも 6.3 ポイント上回った。

ウ 年代別に見た状況

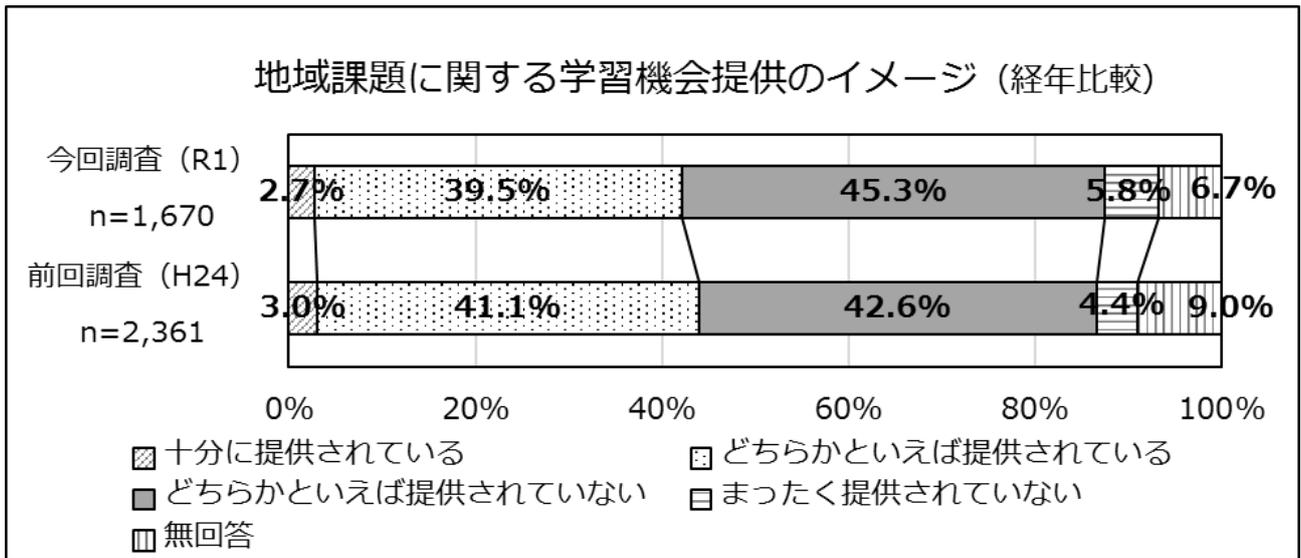
【図 28】



30～50 歳代と 70 歳以上は、肯定的なイメージが 45%前後、否定的なイメージが 50%前後であるが、20 歳代と 60 歳代は、肯定的なイメージが 30%台前半、否定的なイメージが 60%台前半となった。

工 地域課題に関する学習機会提供のイメージについての過去の調査との比較

【図 29】



「十分提供されている」「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージは、前回調査よりも 1.9 ポイント減少した。それに対応して、「どちらかといえば提供されていない」「まったく提供されていない」という否定的なイメージは、前回調査よりも 4.1 ポイント増加し、半数を超えた。

(13) 地域活動に対するそれぞれの思い

問 12 その他、地域活動全般について、自由にお書きください。

*設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

アンケート調査回答者の地域活動全般に関する自由記述について、主なものを下に挙げた。

《参考：問 12 の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

- ◎地域活動においては、地域住民の温度差があり、活躍する人、活動できる人が限られてくる。役割として兼任などが多くなるため、1人ひとりが活躍できるようにいろいろな人を巻き込んでいけると、活性化するのではないかと思う。
- ◎地域活動は誰かがやってくれるのを待つものではなく、地域住民みんなが自ら何ができるかを考え実践することから始まるものだと考える。自分のことと実感してもらうことが大切なのではないかと思う。
- 地域課題に関しての学習の機会はあるが、一般の立場からすると仕事の都合をつけてまで参加することは困難である。参加しやすい時間等はもちろんのこと、学習する機会に参加することで何が得られるかをもっと理解できるような工夫をしてほしい。
- 地域を自治会などの運営によってよりよくする考え方は、都市部では既に有名無実なのではないか。そもそもつながりがないし、ない方が安心という方が多い。
- 情報が提供されていたとしても、一般にその情報が浸透していない。消極的な情報提供ではなく、有効な手立てを考えるべきだと思う。
- 学校の統合に伴って、学校から遠い地域は学区内の活動と受け入れられにくく、子どもから老人までの活動をすることが大変になっている。
- 昼夜の人口構成の変化を考えると、企業などの労働人口にも目を向け、地域課題をとともに考える必要性を感じる。
- 現在の住居環境は、自治会などに入っていないために地域住民との交流が十分確保されていない。これからは、マンション住民としてどのように活動していくか考えて行動する必要があると思われる。
- 地域が必要としていることと自分のできることが合致するための情報と、それをコーディネートする窓口があると良いと思う。
- 地域活動は確かに必要である。しかし、既に活動している方々に、新しい方々にとって入りにくい雰囲気があったり、活動への取組手段（昔からのやり方がある！など）に固執されたりすると、なかなか活動に取り組みにくい。
- 地域のコミュニティがしっかりと整備されているところとされていないところの地域差を感じており、保護者や地域の大人の意識の差が子どもたちのものの考え方や見方にも影響を与えている。地域で子どもを育てようという意識のあるコミュニティならよいが、そうでないと子どもへの関わりが各家庭のみとなり、家庭教育のみでは困難を感じることも多い。地域の中心的な役割を担う人たちと若い世代や子ども、学校関係者が交流する場を設けて、地域ぐるみの子育てを実現したい。
- 2、3ヶ月に1度（多いと毎月）花いっぱい、ゴミ拾い、草刈りなどを行っているが、1度始めると、「やるべき（毎回出席すべき）」という空気があり、とても負担である。